



家庭用蓄電システム トライブリッド蓄電システム[®]

V2H一体型システム : ES-T3V*

V2Hセパレート型システム : ES-T3P*/ES-T3PL*

このたびは、ニチコン トライブリッド蓄電システムをお買い上げいただきまして
まことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みいただいたうえで、正しくお使いください。
また、保証書とともに大切に保管してください。

※ 本書だけでは本製品のすべての操作を行うことはできません。
必ずパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書もあわせてご利用ください。

V2Hシステム取扱説明書

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ずお守りください。
- お読みになられた後も、ご利用される方がいつでも参照できるところに必ず保管してください。

ここに示した事項は、⚠警告 ⚠注意に区分しています。

 警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される事項。
 注意	取り扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う危険が想定される事項、および物的損害のみの発生が想定される事項。

絵表示については次のような意味があります。

	*必ずアース線を接続 安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続して接地をとるように指示する表示		*感電注意 特定の条件において、感電の可能性を注意する通告
	*一般的な禁止 特定しない一般的な禁止の通告		*分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止の通告
	*一般的な指示 特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示		

⚠ 警告

	取付工事・修理・移動・再設置・破棄はお買い上げの販売会社に依頼する 適切な施工・処置がなされない場合、感電や火災のおそれがあります。		コンセントに金属、紙、水などを差し込んだり、中に入れたりしない 火災・感電・故障のおそれがあります。
	分解・改造しない 感電や障害を負うおそれがあります。		本製品には、灯油やガスを用いた暖房機器、電熱機器など、火災を引き起こす可能性のあるものは接続しない 災害時に火災の原因になることがあります。 やむなく接続している場合は、停電時に自動で給電しない設定（53 ページ）にし、安全を確認しながらご利用ください。
	子供を近づけない 感電・やけど・火災のおそれがあります。		
	災害などにより本蓄電システムが浸水、水没、変形、破損、転倒などした場合、本蓄電システムに近づかない 感電、有害ガスの発生、発熱、発煙、発火、蓄電池からの電解液が漏れるなどの危険がありますので、「V2H システムを停止させる場合」（55 ページ）に従って蓄電システムを停止させ、すみやかにお買い上げの販売会社にご連絡ください。		本製品には、途中で電源が切れると困る家電製品は接続しない 夜間や曇りなどで太陽光発電電力または蓄電池ユニット、車両の電力が不足すると蓄電システムは停止し、家電製品の電源が切れますので、パソコンなどのデータが破損するおそれがあります。また、不安定な電源なので生命にかかわる機器（医療機器など）には絶対に使用しないでください。

警告



蹴ったりして強い衝撃を与えない
変形により短絡し、発熱・発火・破裂・火災のおそれがあります。



吸排気口などに物（金属、紙、水など）を差し込んだり中に入れたりしない
火災・感電・故障の原因となります。



本製品のフロントパネルなど機器を開けない
内部に電圧の高い部分があります。感電のおそれがあります。



お子様に操作させない
感電、やけど、火災のおそれがあります。



本製品の上に乗ったり、座ったり、ぶらさがったり、物を置かない
機器が変形・脱落し、けが・感電・故障のおそれがあります。



本製品の近くに可燃性ガスや引火物を置かない（60cm 以内）
電気部品のスパークで漏れたガスや引火物などに引火するおそれがあります。



充放電ケーブルを踏む、上に物を置く、ひきするなどしない
ケーブルが損傷し、火災や感電のおそれがあります。



煙が出る、変なにおいがする場合は、本製品には近づかず、室内リモコンの各種設定画面上の「運転停止」をタッチし、機能分電盤の蓄電システム用ブレーカを「OFF」にする

そのまま使用すると、火災の原因となります。すみやかにお買い上げの販売会社にご連絡ください。



植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、充電中、給電中の本製品に近づかない

機器本体からの電磁波が、ペースメーカーおよび ICD の動作に一時的な影響を与える場合があります。



充放電コネクタを車両に接続する場合は、ぬれないようにする

感電・故障のおそれがあります。



充放電コネクタをぬれた手で触らない

感電のおそれがあります。



充放電コネクタの金属接点に触れない

高い電圧が加わり感電のおそれがあります。



有機溶剤（ベンジンなど）をかけて清掃しない

製品の変色、破損の原因となることがあります。

⚠ 注意



本製品では、負荷によって使用できないものがある
ポンプやモーターなど起動時に大きな電力を必要と
するものは使用しないでください。



本システムの近くでテレビやラジオ、無線などを使用
しない
テレビの画面が乱れる、ラジオ、無線に雑音が入る
ことがあります。
受信している電波が弱い場所では、電磁障害を受け
るおそれがあります。



吸排気口を塞いだり吸排気口付近に荷物を置いたり
しない
温度上昇により蓄電システムが自動停止する可能性
があります。



ご利用中に室内リモコンの電源スイッチを OFF に
しない
蓄電池が充電されないため使用できなくなり、電池
交換（有償）となる可能性があります。



室内リモコンをぬれた手でさわる、ぬれた布でふく
などしない
感電の原因となることがあります。



本製品の近くで殺虫剤などの可燃性ガスを使用しな
い
引火し、やけど・火災の原因となることがあります。



取扱説明書を熟読する
ご使用される前には取扱説明書や製品の注意書きを
よくお読みになり、正しくご使用ください。



本システムや太陽光発電パネルの配線などから発生
する電氣的雑音が、近隣のアマチュア無線通信やラ
ジオなどの受信に影響を与えることがあります。



点検コードが連続的に表示されている状態のまま放
置しない
蓄電池が充電されないため使用できなくなり、電池
交換（有償）となる可能性があります。



廃棄処理・リサイクルについて
使用後、すみやかに廃棄してください。廃棄する場合は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。
廃棄費用はお客様負担となります。



ソフトウェアの更新が室内リモコンの画面に表示さ
れたら、必ずすぐに更新する
ソフトウェアの更新にはインターネットへの接続が
必要です。



落雪などでパワーコンディショナ吸排気口が塞がら
ないよう設置状況により防雪・雪囲いなどの処置を
行う
温度上昇により蓄電システムが自動停止する可能性
があります。



日差しの強い日や氷点下の日は、充放電コネクタお
よび本体を素手でさわらない
やけどや凍傷の原因となります。



製品に殺虫剤・除草剤をかけない
製品の変色、破損の原因となることがあります。



車両に接続しない場合、充放電コネクタは V2H シ
ステムの充放電コネクタポケット / ホルダーに正し
く格納する
破損のおそれがあります。



植物などが本体の吸排気口から内部に侵入しないよ
うに、日常点検を行う
温度上昇により本体の自動停止、または破損の可能
性があります。



動物の排泄物等が付着することがないように、日常
点検を行う
錆などの腐食が促進され、製品倒壊の原因となるこ
とがあります。



V2H システム地際部に植栽などの土がかからない
ようにする
錆などの腐食が促進され、製品倒壊の原因となるこ
とがあります。

使いこなしビデオマニュアルのご案内

トライブリッド蓄電システムの基本的な使い方から、お客様のご使用環境に合わせた使い方等を動画で解説しています。本書と合わせてご活用ください。

- トライブリッド蓄電システム[®]の概要と構成を知りたい
- 太陽光発電をできるだけ家庭内で使いたい
- 太陽光発電の余剰電力は売りたい
- 電気自動車（EV）を通勤などで頻繁に使いたい
- 電気自動車（EV）を早く充電したい
- 電気自動車（EV）を大きな蓄電池としてフル活用したい
- 停電時に電気自動車（EV）を最大限利用したい
- いざという時の停電にしっかりと備えたい
- 見守りサービスなどの便利なネットワークサービスを利用したい

URL : https://www.nichicon.co.jp/products/ess/system03/tribrid3_video_manual/top.html



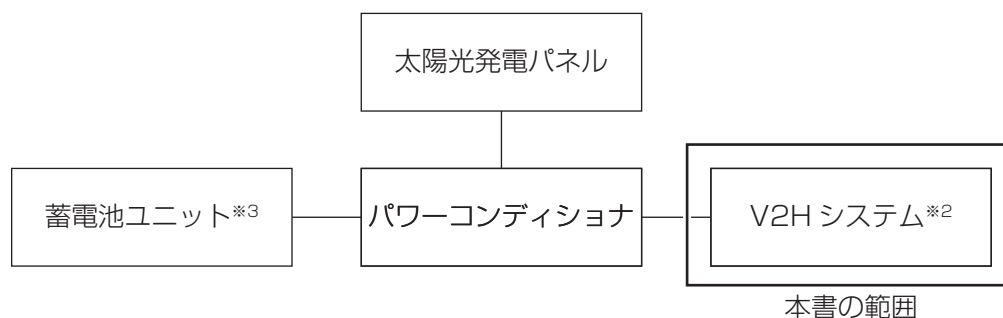
本書について

本書は、V2H システムの内容を記述します。

必ずパワーコンディショナ同梱のパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書もあわせて参照してください。

本書で用いる用語は以下のとおりです。

- 車両 : 電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など、駆動用に蓄電池を備えた自動車
- V2H システム : 車両の大容量蓄電池から電力を取りだし、家庭の電力として使用することができるシステムで、V2H 一体型システム・V2H セパレート型システムの総称
- 外付け太陽光発電 : トライブリッド蓄電システムのパワーコンディショナに直接接続していない太陽光発電^{※1}
- 太陽光発電 : トライブリッド蓄電システムと外付け太陽光発電を合わせた、住宅に設置された太陽光発電
- 系統 : 電力会社から購入する商用電力
- 自動運転モード : 設定された時間帯の中で、家庭内への電力供給および車両への充電を自動で行う動作
- 手動運転モード : 時間帯に関係なく、設定された時点で行う動作



※1 : 外付け太陽光発電は、トライブリッド蓄電システムとは別の太陽光パワーコンディショナが必要です。

※2 : V2H システム以外の項目は、パワーコンディショナ同梱のパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

※3 : 蓄電池ユニットを併設していない場合は、蓄電池の充放電動作は行いません。

もくじ

電気の「家産家消」、もしもの「災害対策」	9
システムの概要	11
取り扱い上のお願い	12
外形寸法図 / 各部の名称	13
充放電コネクタ収納方法（推奨）	15
室内リモコン各部の名称とはたらき	
室内リモコンの本体について	16
室内リモコンの表示について	17
車両との接続方法	
V2H システムの操作ボタンで行う場合	19
室内リモコンで行う場合	20
車両との切断方法	
V2H システムの操作ボタンで行う場合	22
室内リモコンで行う場合	23
通常時の使い方	
V2H システムの各運転モードについて（連系時）	
自動運転モード	24
手動運転モード	28
V2H システムの運転モードを選ぶ（連系時）	
V2H システムの操作ボタンで行う場合	29
室内リモコンで行う場合	30
V2H システムの充放電時刻を設定する	31
EV 放電制限設定を設定する	33
各グラフについて	35
グラフの表示方法	
グラフを表示する	36

V2H システムの詳細設定について	37
V2H システムの詳細設定を選ぶ	39
停電時の使い方（自立運転）	
V2H システムの停電時運転モードについて	
自動運転モード（停電時）.....	40
手動運転モード（停電時）.....	41
V2H システムの停電時運転モードを選ぶ（停電時）	42
停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法	43
停電時に充放電コネクタを利用した起動方法 （例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）	45
復電時の操作	46
こんなときは	
ブザー音や異音について	
ブザー（ピピ音）が鳴ったとき	47
機器から発生する音について	47
動作がおかしいと感じたとき	
ブレーカが頻繁に落ちる場合	47
契約電力を変更する場合	47
停電時に家電製品が使用できない場合	47
室内リモコンの画面が表示されない場合	47
放電時間が設定より短い場合	47
夏季に充放電・発電動作が停止した場合	47
車両が 100%まで充電できない場合	48
太陽光発電電力が充電できない場合	48
車両が充放電できない場合	48
蓄電池ユニットが充放電できない場合（蓄電池ユニット併設時）	48
充放電の動作切り替え時に数秒時間がかかる場合	49
定格で充電できない場合	49
コネクタロック・解除を繰り返す場合	49
車両が満充電後、すぐに放電できない場合	49
停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合	49
停電時に充放電できない場合	49
充放電コネクタが取り出せなくなった場合	49
充放電コネクタを落としてしまった場合	50
充放電コネクタが濡れてしまった場合	50
充放電コネクタが凍結してしまった場合	50

その他ご使用に関する操作方法等

充放電コネクタを緊急離脱する場合	51
停電時、安全を確認してから家電製品をご利用になりたい場合	53
長期不在の場合 (2 週間以上)	54
V2H システムを停止させる場合	55
V2H システムを起動させる場合	56

V2H システムを廃棄する場合

57

風水害または地震などの対応

57

点検コード (BExxx、BFxxx、Blxxx) が表示されたとき

点検コードのメッセージと処置	58
----------------------	----

蓄電池のメンテナンスモードについて

60

車両に接続する際の注意点

日産自動車株式会社の車両 (EV) に接続する際の注意点	61
------------------------------------	----

61

三菱自動車株式会社の車両 (EV) に接続する際の注意点	61
------------------------------------	----

61

トヨタ自動車株式会社の車両 (FCV) に接続する際の注意点	61
--------------------------------------	----

61

トヨタ自動車株式会社の車両 (PHV) に接続する際の注意点	61
--------------------------------------	----

61

本田技研工業株式会社の車両 (FUEL CELL) に接続する際の注意点	61
--	----

61

保証とアフターサービス

保証について	62
--------------	----

62

アフターサービスについて	62
--------------------	----

62

補助金に関するご注意

購入時に補助金の交付を受けた方	62
-----------------------	----

62

遠隔出力制御ルールに関するご注意	63
------------------------	----

63

本製品の機能比較一覧	64
------------------	----

64

仕様

V2H システム	66
----------------	----

66

増設設置の可能期間	66
-----------------	----

66

電気の「家産家消^{※1}」、もしもの「災害対策」

本製品は、住宅の屋根などに設置した太陽光パネルと蓄電池そして、V2H システムと車両を併用して、暮らしに必要な電気を供給する「トライブリッド蓄電システム[®]」^{※2}です。

多彩な太陽光発電と連携。太陽光・蓄電池・V2H システムのパワーコンディショナを一体化

パワーコンディショナ内に車両の制御だけでなく、太陽光発電用・蓄電池用のパワーコンディショナ機能を内蔵しており、幅広いメーカーの太陽光発電パネルを直接接続できます。

また、太陽光発電パネルで発電した直流電力を、直接蓄電池ユニットおよび車両の充電に利用できるため^{※3}、効率のよい電力利用が可能です。また、余剰分が発生した場合は交流変換し、電力会社に売電することもできます。

いつもの生活では「節約」！

昼間の太陽光発電電力を夜間に活用することで、エネルギーの自給自足に貢献します。(グリーンモード)

割安な深夜電力時間帯に充電、昼間の電力使用量ピーク時間帯に放電すれば、電気料金の節約になります。(売電モード)

日常のご使用には、ご家庭の環境やお好みに合わせた運転モードを選ぶことができます。(24 ページ参照)

昼間の太陽光発電電力を夜間、車両に簡単移動する「エレムーブTM」^{※4}

昼間、車両が本システムに接続していない場合は、太陽光発電の余剰電力を一旦蓄電池に充電して(グリーンモード)、夜間に接続した車両に簡単に電力移動(エレムーブ)することができます。

もしもの停電時も「安心」！

本システムは停電時に備えて電力をバックアップします。

突然の停電でも本製品に接続している家電製品は、そのままご利用いただけます^{※5}。

- 昼間の晴天時は、太陽光発電と車両の蓄電池を併用して電力供給します。
また、蓄電池ユニットを併設していれば、蓄電池ユニットからも電力供給します。
- 雨や曇りの日、夜間の停電でも電力を蓄えていた蓄電池ユニットから電力を供給します。
- 車両を V2H システムに接続することで、車両から電力供給を行うことができます。
- AC100V、200V 機器合わせて、消費電力 5.5kW を目安に家電製品をご使用できます。

(定格出力・・・蓄電池のみのとき：最大 4.0kW^{※6})

車両が接続されている場合もしくは 4.0kW 以上太陽光発電している場合：最大 5.9kW))

安心の 15 年保証

V2H システムは、15 年間の保証付き^{※7}で、万が一のときにも安心してご利用いただけます。

詳しくは、保証書の内容をよくお読みください。

※ 1：家で作った電気を家で使うことを指す当社の造語です。

※ 2：太陽光発電、蓄電池、車両の3つの電源を利用するシステムの総称で、ニチコンの登録商標です。

※ 3：太陽光の発電電力およびご家庭の消費電力によっては、蓄電池や車両への充電電力が確保できない場合があります。

※ 4：本機能は、蓄電池ユニットを併設していない場合は、使用できません。

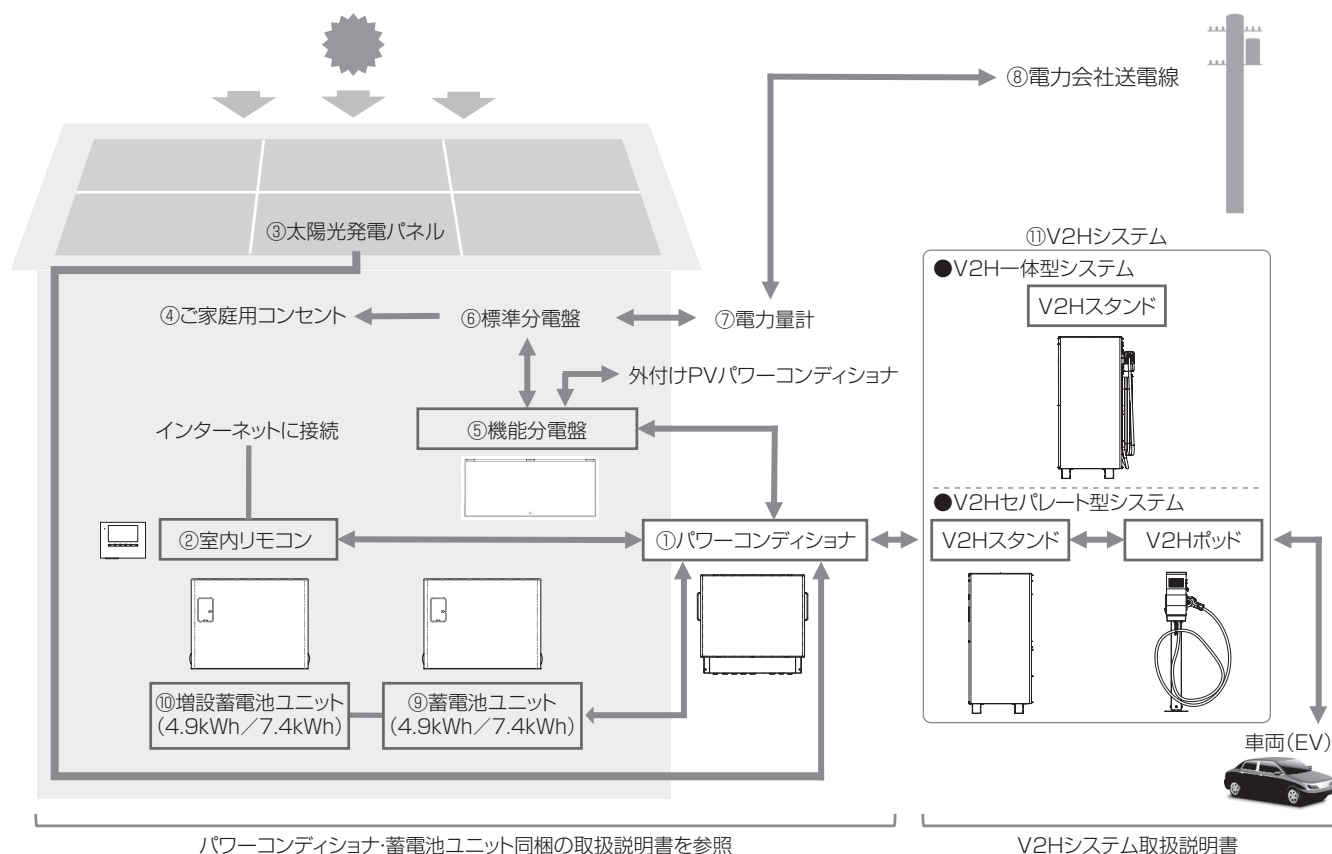
また、エレムーブ動作中は本製品から家庭内への給電が一切できませんので、その間のご家庭の消費電力や電気料金などに注意してお使いください。

※ 5：停電時には、電力供給が一瞬途切れます。本製品に接続している家電製品の仕様によっては電源が切れますので、その時は電源を入れ直してください。電源が切れると支障がある機器は、本製品に接続しないでください。

なお、車両が接続されていない場合もしくは蓄電池ユニットを併設していない場合は、太陽光が発電している場合に限り本製品をご利用いただけます。

※ 6：蓄電システムの最大出力電力は、「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」を参照してください。

※ 7：充放電コネクタ、充放電ケーブルは 10 年保証となります。



1. パワーコンディショナ

太陽光パネルの直接接続を可能にする太陽光発電用パワーコンディショナ・蓄電池ユニット用パワーコンディショナ・V2Hシステム用パワーコンディショナ機能を内蔵しています。最大4系統の太陽光発電回路を直接接続できます。

太陽光発電または系統の電力を車両に充電できます。必要に応じて蓄えた電力を放電します。太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります。(売電)

2. 室内リモコン

表示画面を備えた操作パネルです。充電・放電状態の表示や各運転モードの設定が行えます。

3. 太陽光発電パネル

パワーコンディショナに直接接続し、太陽光を受けて発電します。

4. ご家庭用コンセント

家庭負荷用の電源コンセントです。通常時だけでなく、停電時でも本システムから電力を供給できます。

5. 機能分電盤

ご家庭用コンセントへの電力供給を自動的に切り替えます。通常時は系統と蓄電システム両方の電力を供給できますが、停電時には自動的に蓄電システムだけの給電となります。

連系運転用ブレーカ、蓄電システム用ブレーカおよび自動切替スイッチを内蔵しています。

6. 標準分電盤

契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカおよび分岐ブレーカを内蔵しています。

7. 電力量計

買電用と売電用の2種類があり、電力会社から購入した電力(買電)と、電力会社に売る余剰電力(売電)を計量します。

8. 電力会社送電線

不足電力を電力会社から購入し(買電)、太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります(売電)。

9. 蓄電池ユニット

リチウムイオン蓄電池とそれを監視コントロールするバッテリーマネジメントシステムで構成されています。パワーコンディショナを介して電力を蓄える、または蓄えた電力を放電します。

詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

10. 増設蓄電池ユニット

リチウムイオン蓄電池とそれを監視コントロールするバッテリーマネジメントシステムで構成されています。蓄電池ユニットに対し、指定の組み合わせで蓄電池容量を増やすことができます。

詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

11. V2Hシステム

パワーコンディショナを介して、車両への充電、車両からの放電を行うための接続機器です。

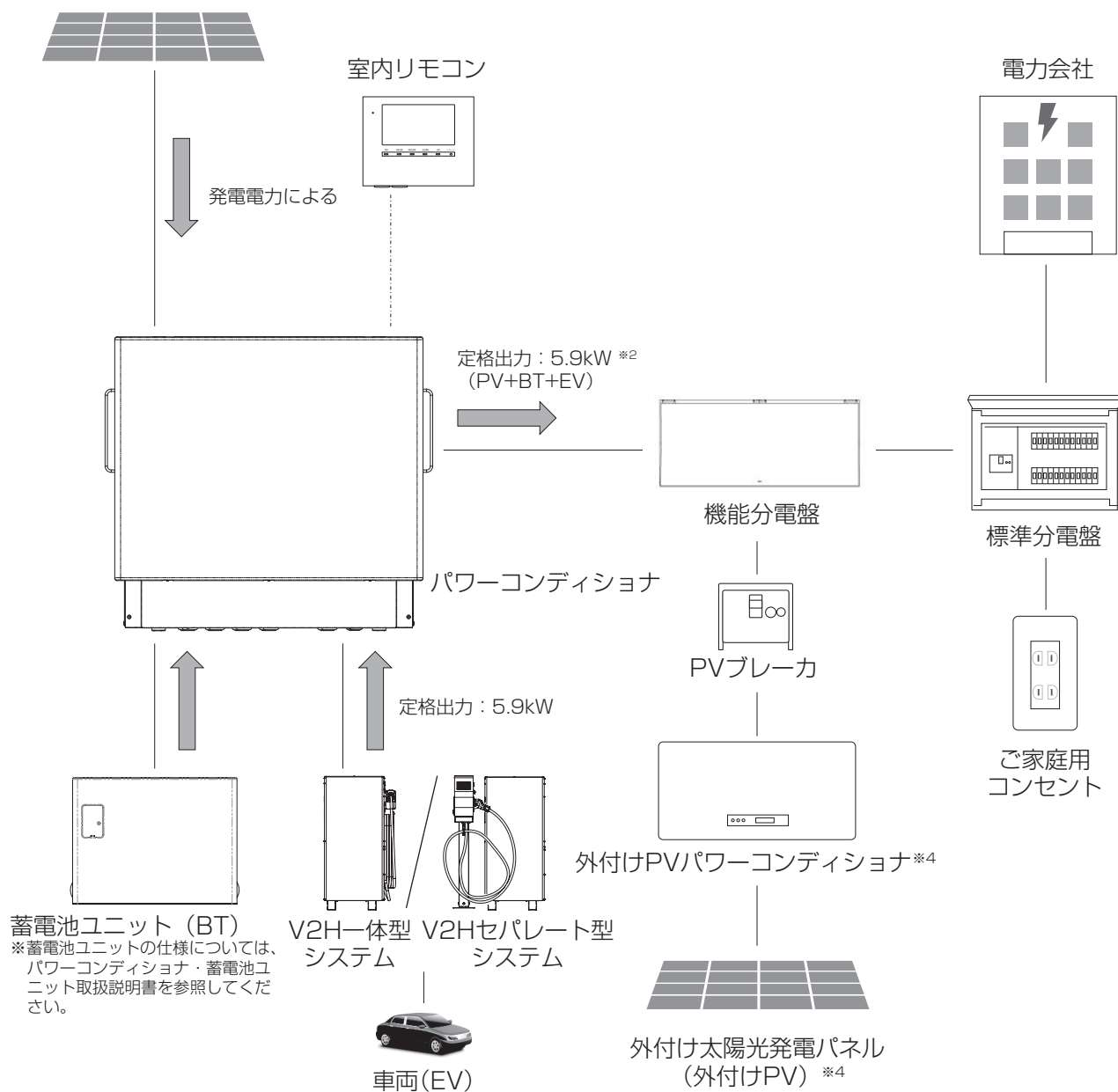
※充電：太陽光発電または系統の電力を車両に蓄えること。

※放電：車両に蓄えている電力を供給すること。

※給電：太陽光発電や車両に蓄えられた電力をご家庭に供給すること。

システムの概要

太陽光発電パネル (PV) ※3, 4



※ 1： 定格出力の表記はすべてパワーコンディショナ出力の値となります。

※ 2： パワーコンディショナからの出力は、太陽光発電電力を優先的に利用し、家庭内負荷に対し不足があれば蓄電池ユニットおよび車両の電力を利用します。蓄電池ユニットおよび車両からの放電の優先度は設定可能です。(37、38 ページ)

※ 3： パワーコンディショナの定格出力 (5.9kW) を超えた太陽光発電電力がある場合は、車両が充電できる状態の時に限り、余剰分を車両に充電します。車両が接続されていない場合や満充電だった場合は、蓄電池ユニットを併設していれば蓄電池ユニットに充電します。

※ 4： パワーコンディショナの搭載容量を超える太陽光発電パネルを接続する場合は、外付け PV パワーコンディショナへの接続が必要です。

取り扱い上のお願い

■次のような場所には取り付けない

V2H システム (V2H スタンド・V2H ポッド)

- ☐ 標高 2000m より高いところ
- ☐ 岩礁隣接地域
- ☐ 重塩害地域
- ☐ 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有害ガスのあるところ
- ☐ 振動、衝撃の影響が大きいところ
- ☐ 油蒸気のあるところ
- ☐ 浸水のおそれがあるところ
- ☐ 電界の影響が大きいところ
- ☐ 風通しが悪いところ、屋内 (物置、倉庫を含む)
- ☐ 販売会社で決められていないところ
- ☐ 結露および氷結のあるところ
- ☐ 次の温度範囲以外のところ
 - 設置環境温度: $-30^{\circ}\text{C} \sim +45^{\circ}\text{C}$
 - 動作温度: $-20^{\circ}\text{C} \sim +40^{\circ}\text{C}$
 - (動作温度範囲を超えると動作が停止したり出力が低下しますが、範囲内に戻ると自動復帰します)

- ☐ 建物の屋根等から雪庇、つらら等が落下するところ
- ☐ 200cm を超える積雪がある地域

※ 上記に該当しない場所であれば積雪地でも設置可能ですが、設置の際は以下の点にご注意ください。

- ・雪囲いの設置は不要ですが、設置する場合は下記の V2H システムの最低離隔距離を必ず守ってください。また、雪囲いの中に雪が積もる場合は、吸排気口が塞がったり、充放電コネクタの使用に支障がでたりしないよう、定期的に除雪してください。
- ・V2H システムおよび周囲への融雪剤散布は、錆が発生するおそれがあるためお控えください。



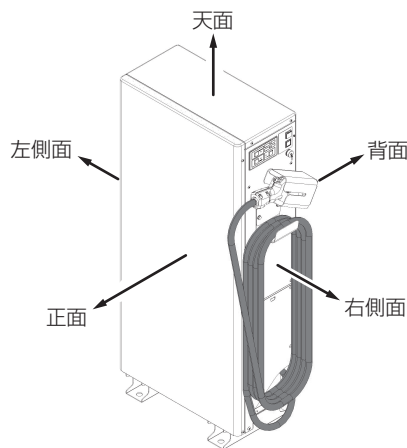
最低離隔距離

V2H システムの周囲は、排熱とメンテナンスのために、以下の寸法以上の距離を確保してください。また、それらの妨げにならないよう、最低離隔距離範囲内には物を置かないでください。

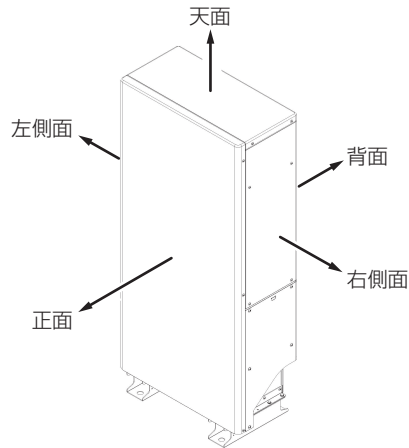
<V2H スタンド (一体型 / セパレート型)>

- 正面: 450mm
- 背面: 50mm
- 左側面: 300mm
- 右側面: 500mm
- 天面: 200mm

■V2H スタンド (一体型)



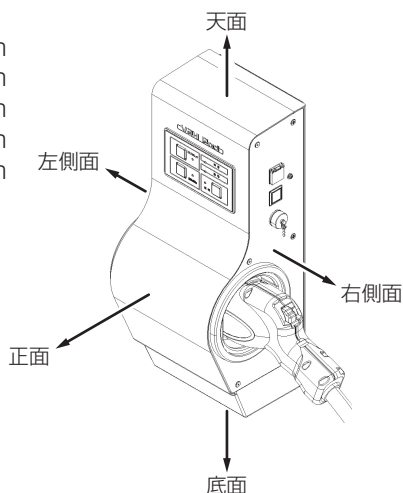
■V2H スタンド (セパレート型)



<V2H ポッド>

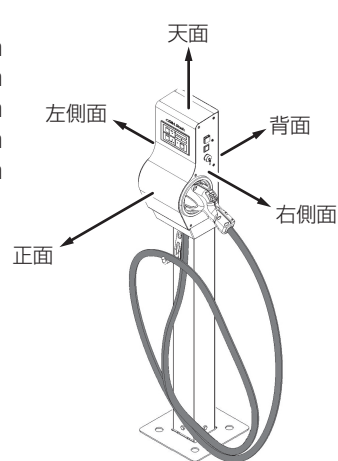
■壁掛け設置の場合

- 正面: 200mm
- 左側面: 400mm
- 右側面: 400mm
- 天面: 200mm
- 底面: 900mm



■ポール設置の場合

- 正面: 200mm
- 背面: 200mm
- 左側面: 300mm
- 右側面: 300mm
- 天面: 200mm



※V2H ポッド用ポールはオプション品です。

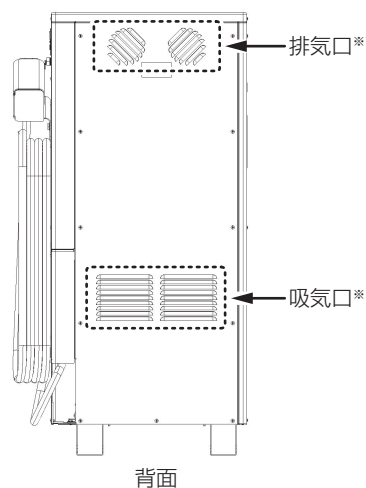
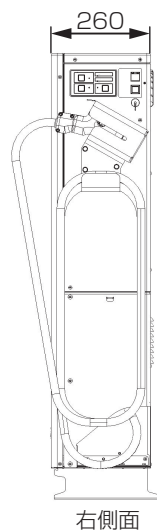
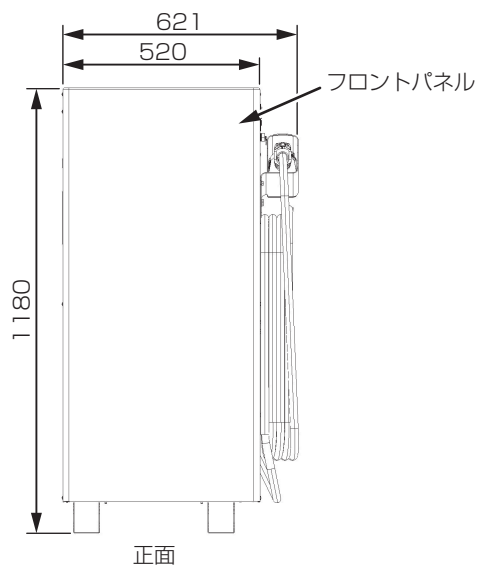
外形寸法図 / 各部の名称

■ V2H システム

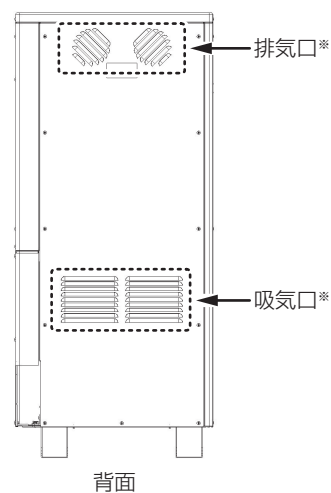
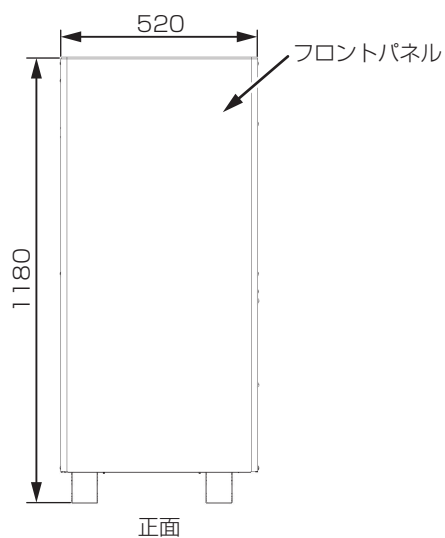
単位：mm

V2H スタンド（一体型）

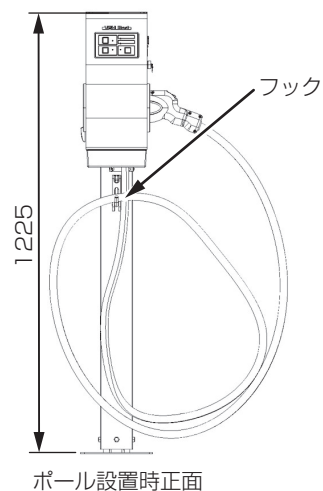
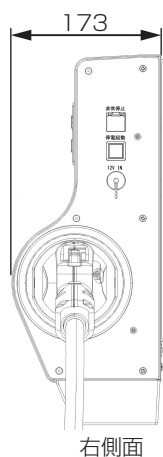
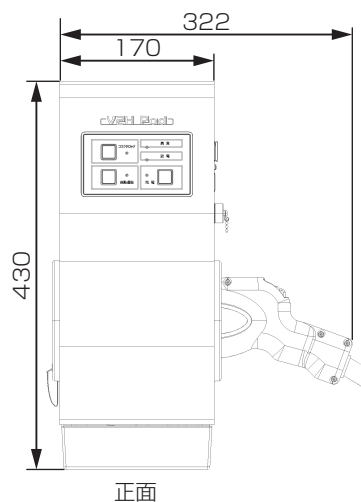
※：吸気口・排気口が塞がると、温度上昇によりV2Hシステムが自動停止する場合があります。吸気口・排気口を塞がないようご注意ください。



V2H スタンド（セパレート型）



V2H ポッド



次ページへ続く

取り扱い上のお願い／外形寸法図／各部の名称

充放電コネクタ収納方法（推奨）

充放電コネクタは製品型番ごとに収納方法が異なります。

■ V2H 一体型システムの場合（ES-T3V*）

充放電コネクタは、V2H スタンド右側の充放電コネクタポケットに収納します。

- ケーブルを時計回りに巻き、フックに 4 周引っ掛けてください。
- 巻き終わったら、V2H スタンド右側の充放電コネクタポケットに、充放電コネクタを収納します。

■ V2H セパレート型システムの場合（ES-T3P*/ES-T3PL*）

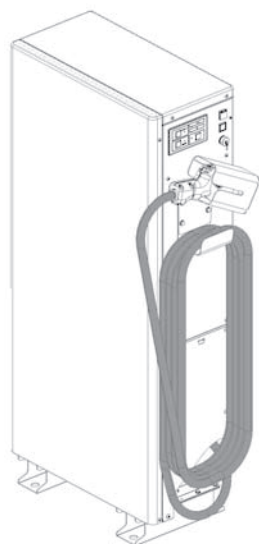
充放電コネクタは V2H ポッドの左右どちらにも収納可能（※）です。

（本書では右側に収納する場合で説明します。左側に収納する場合は左右で読み替えてください。）

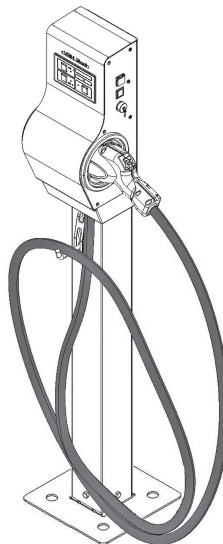
- ケーブルを反時計回りに巻き、フックに引っ掛けてください。
ケーブルをフックへ引っ掛ける回数は、製品型番ごとに以下を参照してください。
ES-T3P*（ケーブル長：3.5m）の場合 ：1 周
ES-T3PL*（ケーブル長：7.5m）の場合 ：4 周
- 巻き終わったら、ポッド本体右側の充放電コネクタホルダーに、充放電コネクタを「カチッ」と音がするまで挿し込んでください。

■ 例：充放電コネクタ収納状態

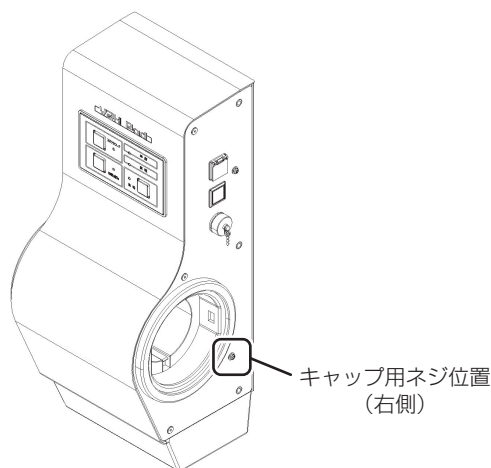
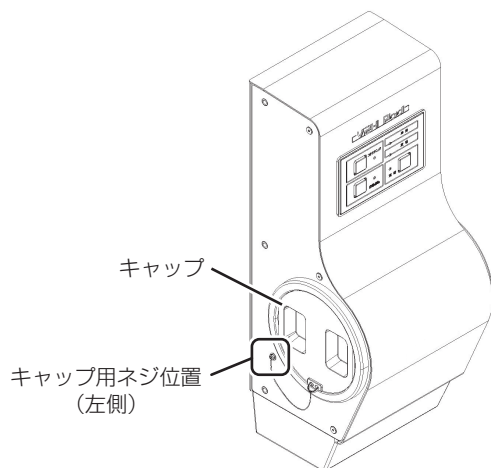
- ES-T3V* の場合：フックに 4 周引っ掛け



- ES-T3P* の場合：フックに 1 周引っ掛け



※ 充放電コネクタの収納向きに応じて、V2H ポッドのキャップを左右で付け替えることができます。
キャップを付け替える際は、下記で指定したネジを取り外して、ネジと一緒に左右で付け替えてください。



✎ メモ

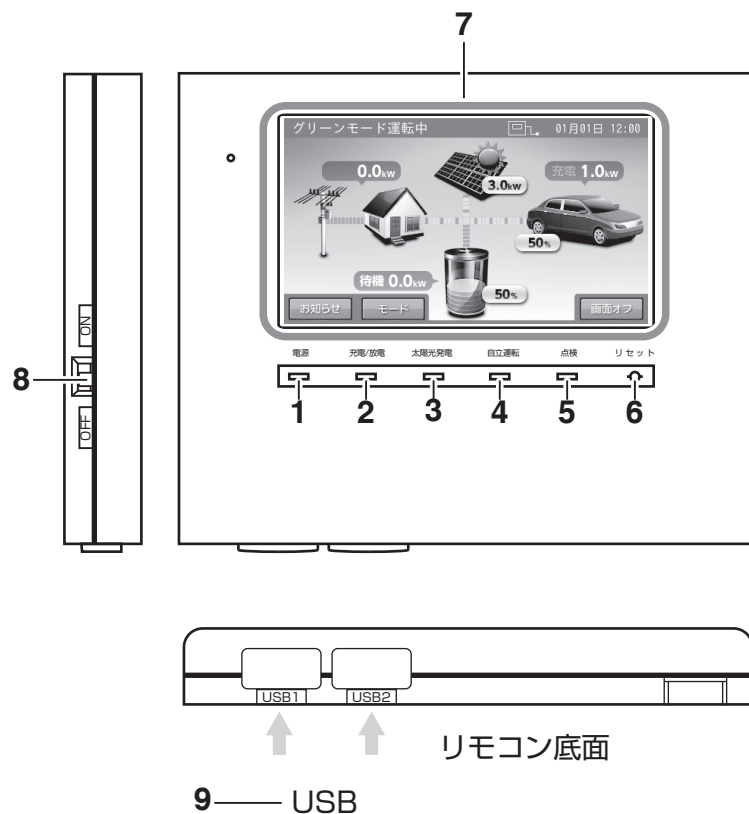
- 指定した箇所以外のネジは取り外さないでください。
- ネジを取り付ける際は、ネジを強く締め付けすぎないでください。締め付けすぎると、V2H ポッドが破損するおそれがあります。
- キャップ用ネジ以外のネジを取り付けられないでください。他のネジが取り付けられると、V2H ポッドに錆が発生するおそれがあります。

室内リモコン各部の名称とはたらき

室内リモコンの本体について

本製品は、室内リモコンの画面をタッチしてさまざまな操作を行います。

※製品の構成や外付け太陽光パワーコンディショナの接続状況により、画面構成が異なります。



蓄電池ユニットがない場合、蓄電池アイコンは表示されません。

1. **電源ランプ**
室内リモコン ON 時に点灯します。

2. **充電 / 放電ランプ**
運転状態を表示します。

緑：充電 / 放電

消灯：待機 / 停止

※蓄電池ユニットおよび車両の接続がなく、太陽光パネルしか接続していない場合は、常に消灯となります。

3. **太陽光発電ランプ**
太陽光発電中に点灯します。

4. **自立運転ランプ**
自立運転中に点灯します。

5. **点検ランプ**
点検コード発生中に点滅します。(58 ページ)

6. **リセットボタン**
室内リモコンのマイコンをリセットします。

7. **画面**
表示画面を兼ねたタッチパネルです。
充電・放電状態の表示や各運転モードを設定します。

8. **電源スイッチ (スライドスイッチ)**
室内リモコンの電源を ON/OFF します。

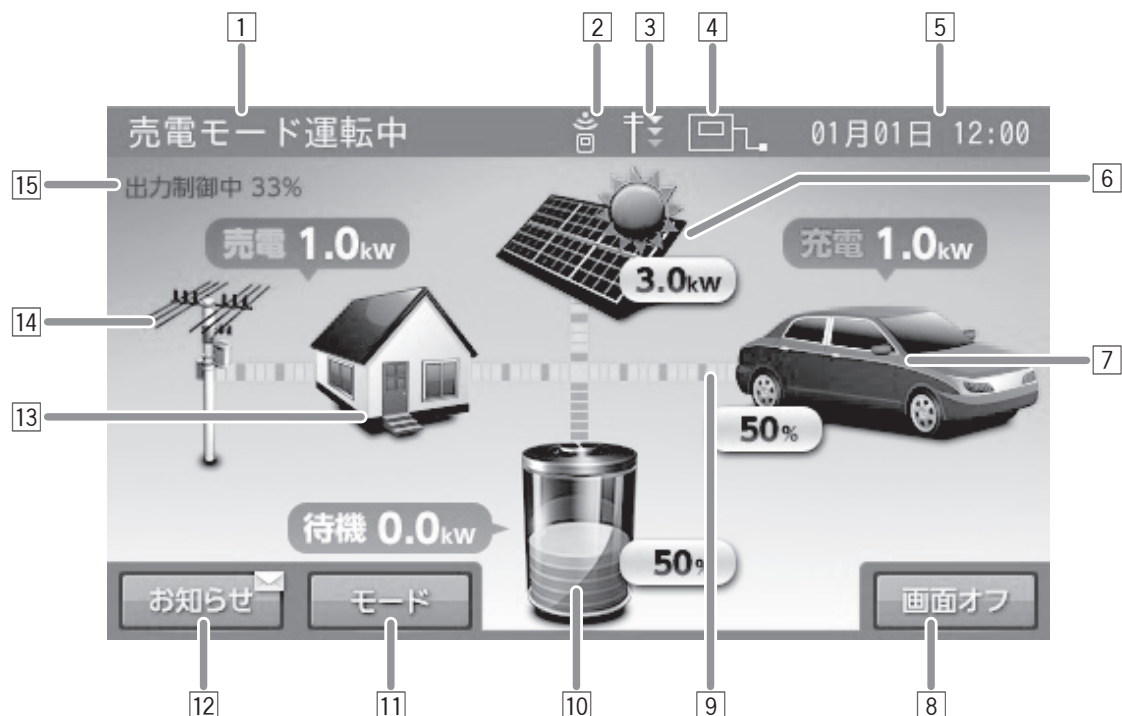
9. **USB**
通常使いません。
無線 LAN 利用時には、無線 LAN 子機を接続します。

メモ

- 点検ランプが点滅しているときは、室内リモコンの画面に点検コードが表示されます。「点検コード (BExxx、BFxxx、Blxxx) が表示されたとき」(58 ページ) に従って処置してください。
- 蓄電システム運転中に、電源スイッチを「OFF」にしないでください。蓄電システムを停止したい場合は、「V2H システムを停止させる場合」(55 ページ) の操作を行ってください。

室内リモコンの表示について

■ ホーム画面例



表示される電力値や残量は目安としてご利用ください。

1 運転モード

蓄電システムの現在の運転モードを表示します。
例：売電モード運転中

2 リモートアイコン

見守りサーバー、ECHONET Lite^{*1}、HEMS^{*2}など外部からの通信により運転しているときに表示されます。
通信状態ではないときは表示されません。

3 電圧上昇抑制アイコン

環境起因により電力会社側の電圧が上昇し、抑制が働いているときに表示されます。表示中は売電量が減る場合があります。

4 アンテナアイコン

室内リモコンと宅内ネットワークとの接続状況を表示します。

	有線 LAN 使用時に、ルーターと正常に接続しています。 ※ ルーターと接続していても、インターネットと接続しているとは限りません。
	有線 LAN 使用時に、ルーターと接続していません。
	無線 LAN 使用時に、ルーターと正常に接続しています。 ※ ルーターと接続していても、インターネットと接続しているとは限りません。 ※ ルーターとの電波強度は、4 段階で表示します。
	無線 LAN 使用時に、ルーターと接続していません。

5 現在日時

現在の日時を表示します^{*3}。

6 太陽光パネルアイコン

タッチすると、太陽光に関する設定画面が開きます。

	太陽アイコン 内部の太陽光発電または外付け太陽光発電の電力が 100W 程度より大きい場合には、太陽光パネルアイコンに太陽アイコンを表示します。
	内部の太陽光発電電力を表示します。 合算時は、内部の太陽光発電電力と外付け太陽光発電電力を合計して表示します。

7 車両アイコン

タッチすると、V2H システムに関する設定画面が開きます。

	コネクタロック状態 車両がコネクタロックされている場合の表示です。車両はカラーで表示されます。
	コネクタロック解除状態 車両がコネクタロックされていない場合の表示です。車両はグレイアウト表示されます。

充電 1.0kW **車両充放電電力^{*4}**
車両の充放電電力を表示します^{*6, 7}。

車両状態

放電：100W より大きい電力を車両から放電している場合
充電：100W より大きい電力を車両に充電している場合
待機：充放電を行っていない場合
充放電電力が 100W 未満の場合
表示なし：停止中

50% **車両蓄電池残量**
車両の蓄電池残量を表示します^{*5, 6}。

次ページへ続く

- 8

画面オフボタン
ボタンをタッチすると、画面をオフにします。
画面オフ時は、液晶画面のどこかをタッチすると、画面を再表示します。
- 9

電力の流れ
各機器間の電力の流れのイメージを破線で表示します。
 - 破線非表示 : 100W 未満^{※8}
 - 動きの遅い破線 : 100W 以上
 - 動きの速い破線 : 1.0kW 以上
- 10

蓄電池アイコン^{※9}
タッチすると、蓄電池に関する設定画面が開きます。



放電中は緑色に、充電中は橙色に表示します。待機中および停止中、または充放電電力が 100W より低い場合は、直前の色を表示します。

待機 0.0kW

蓄電池充放電電力^{※4}

蓄電池の充放電電力を表示します^{※7}。

蓄電池状態
放電 : 100W より大きい電力を放電している場合
充電 : 100W より大きい電力を充電している場合
待機 : 充放電を行っていない場合
充放電電力が 100W 未満の場合
表示なし : 停止中

50%

蓄電池残量

蓄電池の残量を表示します^{※10}。
- 11

モードボタン
タッチすると、運転モードに関する設定画面が開きます。
- 12

お知らせボタン
タッチすると、お知らせに関する画面が開きます。



未読がある場合に表示されます。
- 13

家アイコン
ご家庭内を意味します。
タッチすると、各種設定 / グラフに関する設定画面が開きます。
- 14

電柱アイコン
系統（電力会社）を意味します。

売電 1.0kW

売買電電力^{※4}

売買電電力を表示します^{※7}。

系統状態

買電、売電の状態を表示します。
- 15

出力制御表示
遠隔出力制御ルールに基づいて、電力会社による太陽光出力コントロールが行われるときに表示されます。
表示中は売電量が減る場合があります。

- ※1 : 「ECHONET Lite」「エコネットライト」は、エコネットコンソーシアムの登録商標です。
- ※2 : 「HEMS」は、Home Energy Management System の略です。家庭で使うエネルギーを賢く管理するシステムです。
- ※3 : ネットワーク接続していない場合は、ご利用中に少しずつずれが発生しますので、定期的に時刻の設定を行ってください。
- ※4 : 他の機器（HEMS など）の値とは異なる場合があります。目安としてご利用ください。
- ※5 : 車両の値とすることがありますが異常ではありません。目安としてご利用ください。
 なお、車種によっては、残量表示が 0%にならない車両があります。
- ※6 : コネクタロックされていない場合は、表示しません。
- ※7 : 100W 未満の場合は、0.0kW と表示します。
- ※8 : 電力が小さい（100W 未満）場合でも、センサーの誤差などにより、電力の流れが表示される場合があります。
- ※9 : 蓄電池ユニットを併設していない場合は、表示されません。
- ※10 : 一度使い切った電池がしばらくすると使える場合があるように、蓄電池特性により、しばらくすると表示が変わることがあります。目安としてご利用ください。

車両との接続方法

車両との接続（コネクタロック）は、車両が停止した状態で行います。

車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（POWER OFF）にします。

メモ

- POWER OFF の名称は、車種により異なる場合があります。車両の取扱説明書を確認してください。
- 車両の取扱説明書を確認してから、下記操作を行ってください。

コネクタロックは V2H システムの表示・操作部ボタンまたは室内リモコンで行うことが可能です。

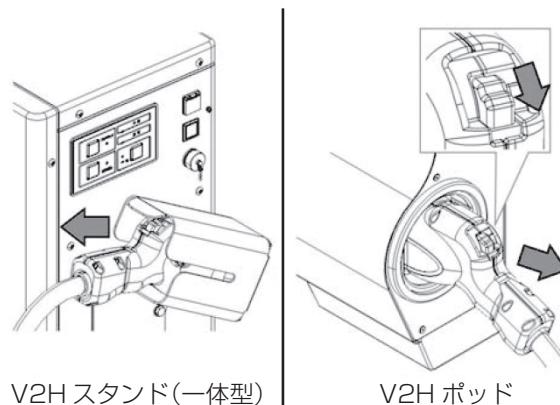
V2H システムの操作ボタンで行う場合

1 車両を準備する

V2H システムと接続するために以下①～④に従って、車両側の準備をしてください。

- ① 車両のシフトレバーを P（パーキング）位置にする。
- ② 車両のメーターパネルを OFF の状態にする。
- ③ パーキングブレーキをかける。
- ④ 車両の充電口を開く。

2 V2H システムから充放電コネクタを取り出す

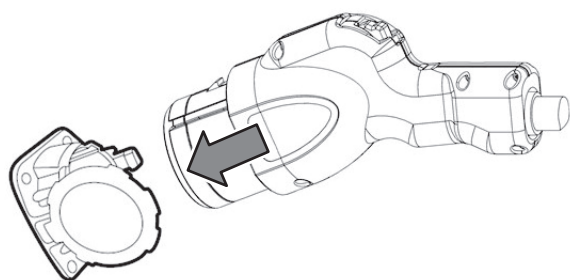


V2H スタンド(一体型)

V2H ポッド

V2H ポッドから取り出す場合は、解除レバーを下に押して、充放電コネクタを引き抜いてください。

3 充放電コネクタを車両に接続する



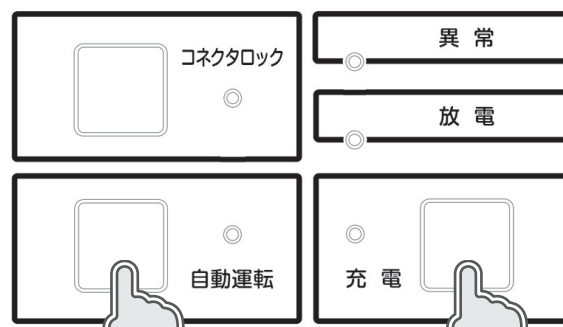
充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。「カチッ！」と音がするまで押し込んでください。

メモ

充放電コネクタ接続中は、車両を移動しないでください。
車両の充電口や充放電コネクタが破損する可能性があります。

4 V2H システムの動作を開始する

表示・操作部



表示・操作部の「自動運転」あるいは「充電」ボタンを押してください。コネクタロックを行ったあと、各ボタンに対応した動作を開始します。

- 「自動運転」ボタン：
最後に選択された自動運転モードで動作します。（24 ページ）
- 「充電」ボタン：
手動運転モードの車両充電で動作します。（28 ページ）

メモ

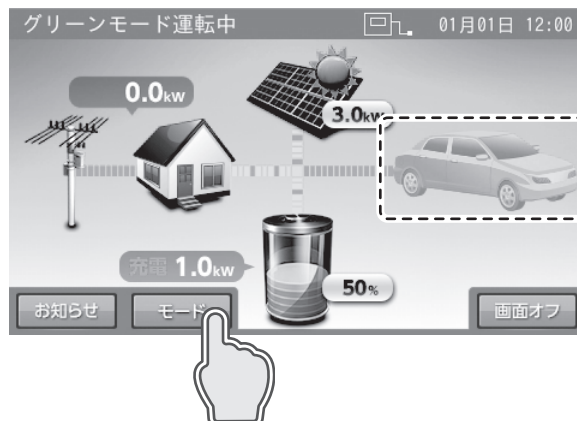
「コネクタロック」ボタンを押した場合は、「自動運転」ボタンと同様の動作となります。

室内リモコンで行う場合

1 充放電コネクタを車両に接続する

「V2H システムの操作ボタンで行う場合」(19 ページ) の手順 1 ～ 3 を行ってください。

2 「車両アイコン」を確認し、「モード」をタッチする



車両アイコンがグレー色であることを確認してください。

赤色：コネクタロック状態

グレー色：コネクタロック解除状態

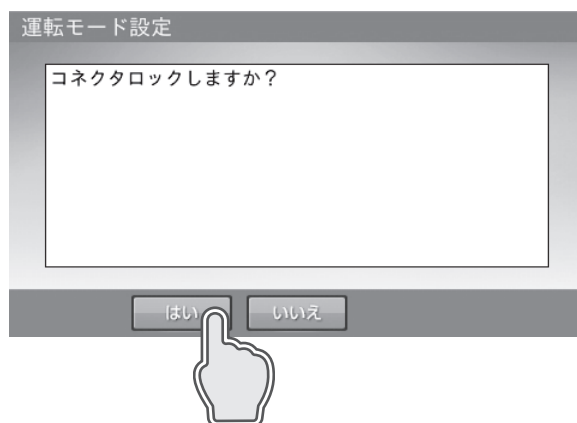
3 「コネクタロック」をタッチする



メモ

蓄電池ユニットを併設していない場合は、「EV モード」、「蓄電池充電」は表示されません。

4 「はい」をタッチする



コネクタロックを行います。

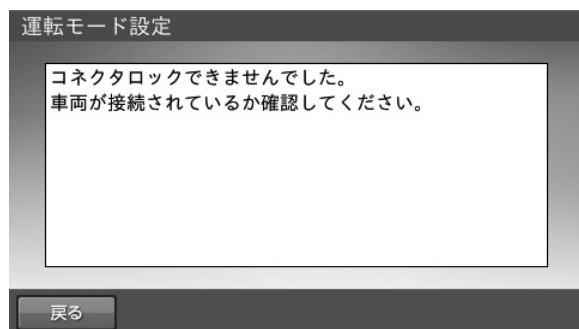
メモ

- 「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。
- コネクタロックをした場合は、選択されている運転モードで動作します。別の運転モードで動作させたい場合は、運転モードを変更してください。(29 ページ)
- 車両の蓄電池残量が 10% を下回った状態でコネクタロックを行うと、車両の蓄電池保護のため、選択されている運転モードにかかわらず、12% 程度まで強制的に充電を行います。12% 程度まで充電を行った後は選択されている運転モードで動作します。

次ページへ続く

コネクタロックに失敗した場合

下図の画面を表示します。

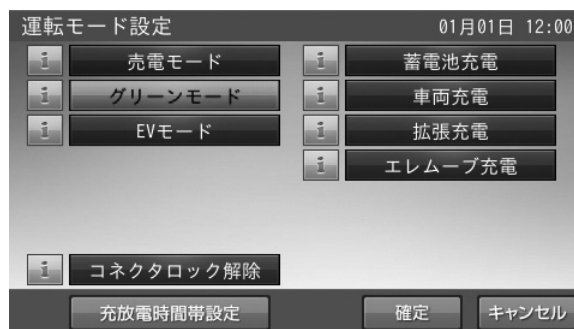


メモ

- 「戻る」をタッチすると、「運転モード設定」画面に戻ります。
- 充放電コネクタが車両に正しく接続されていない場合があります。充放電コネクタの接続を確認してください。
- コネクタロックを行うタイミングによっては、コネクタロックが失敗する場合があります。その場合は、再度「コネクタロック」をタッチしてください。
- 室内リモコンを操作するときは、V2H システム表示・操作部の操作はしないでください。

コネクタロックに成功した場合

下図の画面を表示します。



メモ

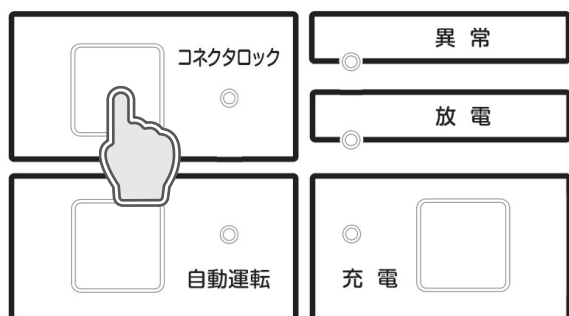
- 「車両充電」、「拡張充電」、「エレムーブ充電」はコネクタロックをすると表示され、選択できるようになります。また、蓄電池ユニットを併設していない場合は、「EV モード」、「蓄電池充電」、「エレムーブ充電」は表示されません。
- 「キャンセル」をタッチすると、ホーム画面に戻ります。

車両との切断方法

車両との切断（コネクタロック解除）は、V2H システムの表示・操作部ボタンまたは室内リモコンで行うことが可能です。

V2H システムの操作ボタンで行う場合

1 充放電コネクタのロックを解除する

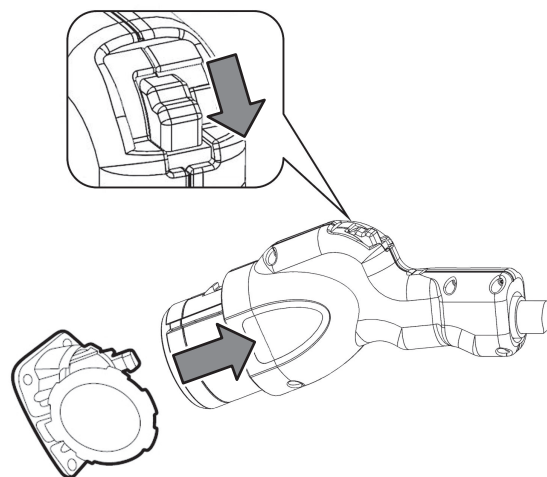


V2H システムの「コネクタロック」ボタンを押します。充放電コネクタのロックが解除されると、「コネクタロック」表示が消灯します。

メモ

- 「コネクタロック」表示が点灯している場合、コネクタロックの解除が必要です。
- 車両の充放電動作中であっても、「コネクタロック」ボタンを押すと充放電を停止してコネクタロックを解除します。

2 車両から充放電コネクタを取り外す



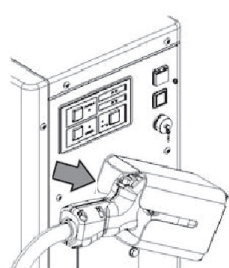
充放電コネクタのロック / アンロック表示が「白」になっていることを確認します。

充放電コネクタの解除レバーを押しながら、充放電コネクタを引き抜きます。

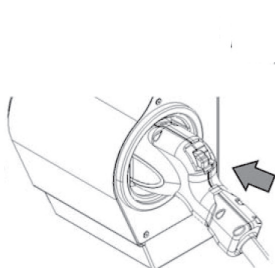
メモ

- 車両の充放電動作中は充放電コネクタを外さないでください。
- 充放電コネクタを外す場合は、V2H システム表示・操作部の全てのランプが消灯していることを確認してから行ってください。
- 充放電コネクタを取り外せないときは「充放電コネクタが取り出せなくなった場合」(49 ページ) を参照して取り外してください。

3 充放電コネクタを充放電コネクタポケット / ホルダーに収納する



V2H スタンド(一体型)

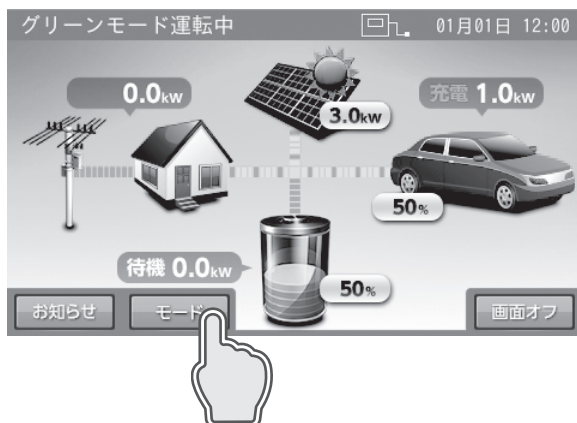


V2H ポッド

充放電コネクタを V2H システムの充放電コネクタポケット / ホルダーに収納します。「充放電コネクタ収納方法（推奨）」(15 ページ) を参照してください。

室内リモコンで行う場合

1 「モード」をタッチする

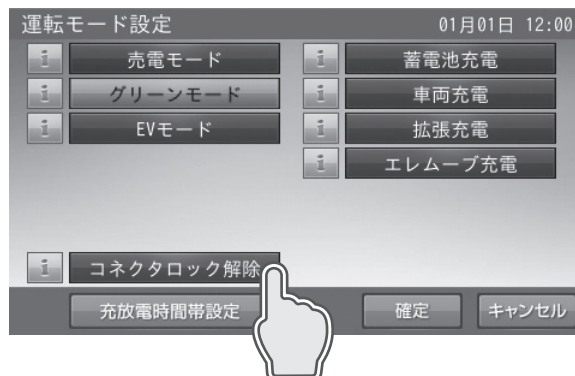


「運転モード設定」画面に切り替わります。

メモ

V2Hシステムの操作ボタンでコネクタロック解除を行う場合は、本操作は不要です。

2 「コネクタロック解除」をタッチする

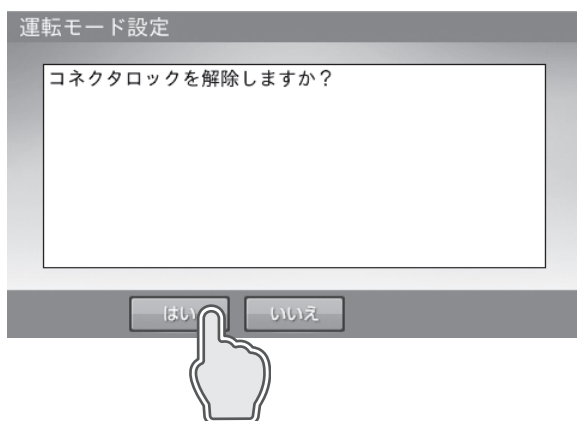


メモ

蓄電池ユニットを併設していない場合は、「EVモード」、「蓄電池充電」、「エレムープ充電」は表示されません。

車両との切断方法

3 「はい」をタッチする



ホーム画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、コネクタロックを解除せず前の画面に戻ります。
- 「車両充電」、「拡張充電」、「エレムープ充電」が動作していた場合は、コネクタロックが解除されると、動作を終了して最後に設定されていた自動運転モードに切り替わります。
- ホーム画面上の車両アイコンがコネクタロック解除状態のグレーになるまで、数秒程度かかる場合があります。

4 充放電コネクタを充放電コネクタポケット / ホルダーに収納する

「V2Hシステムの操作ボタンで行う場合」(22ページ)の手順2～3を行ってください。

通常時の使い方

V2H システムの各運転モードについて（連系時）

本製品では、以下の運転モードを選択することができます。

運転モード	設定できる運転モード	内容
自動運転モード	グリーンモード	太陽光の余剰電力を優先的に車両および蓄電池ユニットへ充電するモードです。
	売電モード	太陽光の余剰電力を優先的に売電するモードです。
	EV モード ※ ¹	太陽光および蓄電池ユニットの電力を優先的に車両へ充電するモードです。
手動運転モード	蓄電池充電 ※ ¹	時間帯に関係なく蓄電池ユニットへ充電するモードです。
	車両充電 ※ ²	時間帯に関係なく車両へ充電するモードです。
	拡張充電 ※ ²	時間帯に関係なく「車両充電」よりも高い電力で車両へ早く充電するモードです。
	エレムープ充電 ※ ³	時間帯に関係なく蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。

※ 1：蓄電池ユニット併設時のみ設定可能となります。

※ 2：コネクタロック状態の時のみ設定可能となります。

※ 3：蓄電池ユニット併設かつコネクタロック状態の時のみ設定可能となります。

● 製品出荷時の設定は「グリーンモード」です。

重要

蓄電池ユニットを併設していない場合に自動運転モードで動作させていると、充放電動作をしない時間帯であっても車両と V2H システム間の通信状態維持のため、車両の蓄電池が電力を消費します。車両の消費電力を抑えたい場合は、コネクタロックを解除する、または手動運転モードをご利用ください。

ただし、コネクタロックを解除していたり手動運転モードで動作している状態で、太陽光発電がない時に停電が発生すると、本システムは停止します。その際は「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」（43 ページ）、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法」（例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）（45 ページ）に従って、本システムを起動してください。

自動運転モード

グリーンモード

昼間、太陽光発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰分を車両もしくは蓄電池ユニットに充電します。

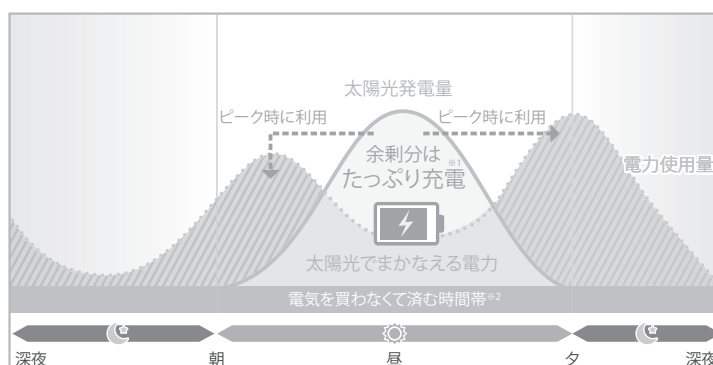
車両もしくは蓄電池ユニットに蓄えた電力を太陽光の発電電力で補えない場合に使うことで、電力会社からの購入電力を減らすモードです。夜間の電気料金が太陽光の売電価格より高い方にお勧めです。

充電動作時は車両へ優先的に充電しますが、車両が満充電の場合は、蓄電池ユニットに充電します。

太陽光発電電力が不足している場合や発電電力がない場合は、「放電優先設定」（37 ページ）に従い、車両もしくは蓄電池ユニットから放電します。

車両および蓄電池ユニットが両方とも満充電の場合は、余剰分を売電します。なお、売電中は車両および蓄電池ユニットから放電しません。

外付け太陽光発電の余剰電力も余剰充電として利用できますが、余剰電力のうち 200W 程度は充電に利用せず、必ず売電となります。



※ 1：満充電後の余剰分は売電します。

※ 2：ご家庭での電気使用量によって異なります。

次ページへ続く

※大容量の太陽光発電パネル接続時の余剰充電制御について（蓄電池ユニット併設時のみ動作）

本製品の定格出力（5.9kW）を超える太陽光発電電力は、自家消費や売電に利用できませんが、蓄電池ユニットや車両への充電は可能です。車両が接続状態（コネクタロック状態）の場合は車両に充電され、車両が未接続状態（コネクタロック解除状態）または車両が満充電状態の場合は、蓄電池ユニットに充電されます。

なお、蓄電池ユニットへの充電の際は、発電電力をできるだけ充電できるように、余剰充電動作の制御を行います。

余剰充電制御は以下の条件によって動作します。

- 本製品に接続されている太陽光発電パネルの容量が 8.0kW 以上の場合、毎日制御を行います。太陽光発電パネルの容量が 8.0kW 未満の場合もしくは車両が放電動作中の間は、制御を行いません。
- 制御中は、発電量が多くなる昼頃から余剰充電を開始します。余剰充電の開始タイミングは、その日の正午付近を基準に本製品内で自動的に計算され、太陽光発電パネルの容量、制御開始時の蓄電池ユニットの残量によって日ごとに異なります。
- グリーンモードの放電停止時刻になると、その日の制御を終了します。

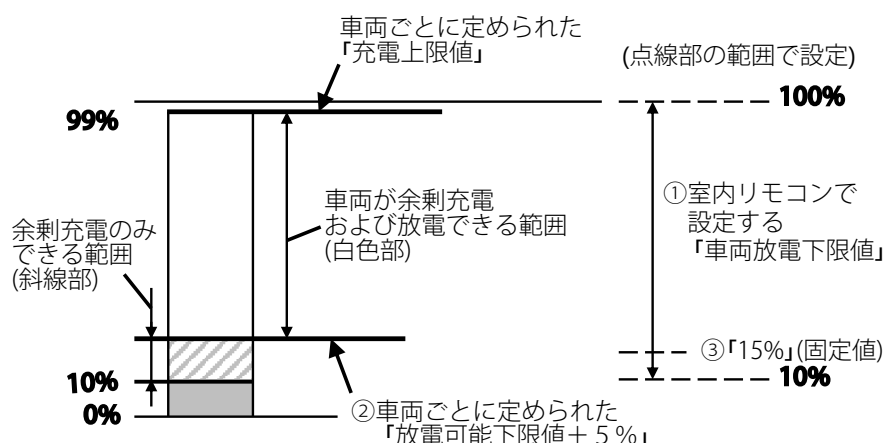
メモ

- 雨天・曇天時は十分な発電電力が確保できず、充電量が少なくなる場合があります。
- 制御開始時に蓄電池ユニットの残量が多いと余剰電力による充電時間が短くなり、電力契約によっては経済性が損なわれるおそれがあります。蓄電池ユニットの設定を確認し、余剰充電ができるよう電力会社の電力で充電する充電量を抑える設定にしてください。蓄電池ユニットの設定については、「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」を参照してください。
- 太陽光発電パネルを 8.0kW 以上接続されている場合に、グリーンモードから売電モードに変更すると、余剰充電制御が動作せず電力契約（深夜電力充電等）により経済性が損なわれる可能性があります。
- 車両がコネクタロックしている場合は余剰充電制御は行わず、通常のグリーンモードで動作します。

重要：グリーンモード動作時に利用できる車両の充放電範囲について

グリーンモード動作時に太陽光発電の余剰充電や車両からの放電動作を行う際は、以下の動作となります。

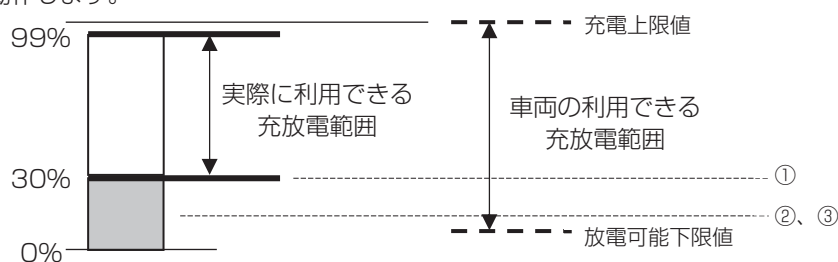
- 充電は車両ごとに定められた「充電上限値」近くまで充電することが可能です。
- 放電は①室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、②車両ごとに定められた「放電可能下限値 + 5%」、③「15%」の 3 つの中で下限値のもっとも高い値まで放電します。



※ 車両の蓄電池残量が「放電可能下限値」もしくは「10%」を下回った場合、車両によっては余剰充電できないことがあります。その場合、「車両放電下限値」を「放電可能下限値」もしくは「10%」より上の値に設定するか、太陽光発電の余剰電力が発生する時間に、充電時間帯を長めに設定(例9:00～9:30)してください。なお、充電時間帯の設定により、電力会社の電力で充電する場合があります。

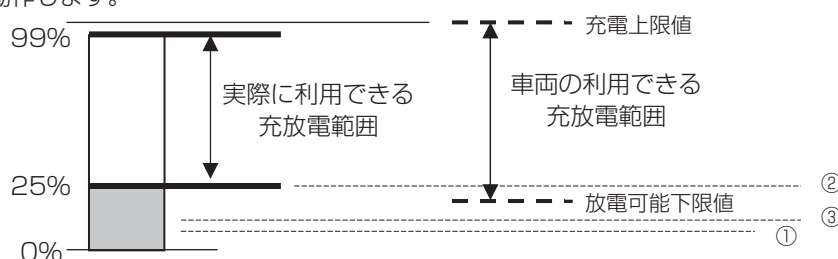
<例 1>

10% ～ 100% の範囲で充放電が利用できる車両では、室内リモコンで車両放電下限値を 30% と設定した場合、「①：30%」、「②：10 + 5 = 15%」、「③：15%」となり、最も高い値が 30% となることから、30% ～ 99% の範囲で動作します。



<例 2>

20% ～ 100% の範囲で充放電が利用できる車両では、室内リモコンで車両放電下限値を 10% と設定した場合、「①：10%」、「②：20 + 5 = 25%」、「③：15%」となり、最も高い値が 25% となることから、25% ～ 99% の範囲で動作します。



売電モード

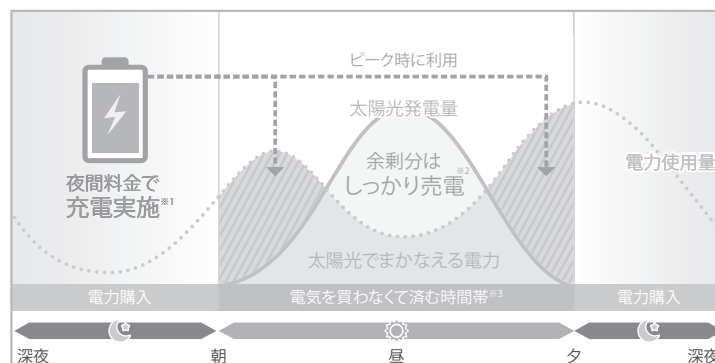
昼間、太陽光発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰分を売電します。

また、電気料金が割安な深夜時間帯に電力会社の電力から充電を行い、車両や蓄電池ユニットからの放電を電気料金が割高な昼間に行うことで、電気料金の節約が可能になります。夜間の電気料金が太陽光の売電価格より安い方にお勧めです。

充電動作時は車両へ優先的に充電しますが、車両が満充電の場合は、蓄電池ユニットに充電します。

太陽光発電電力が不足している場合や発電電力がない場合は、「放電優先設定」(37 ページ) に従い、車両もしくは蓄電池ユニットから放電します。

なお、売電中は車両および蓄電池ユニットから放電しません。



※1：料金は電力会社やプランによって異なります。

※2：売電価格は年度ごとに決まりますので、詳しくはお買い上げの販売会社にお問い合わせください。

※3：ご家庭での電気使用量によって異なります。

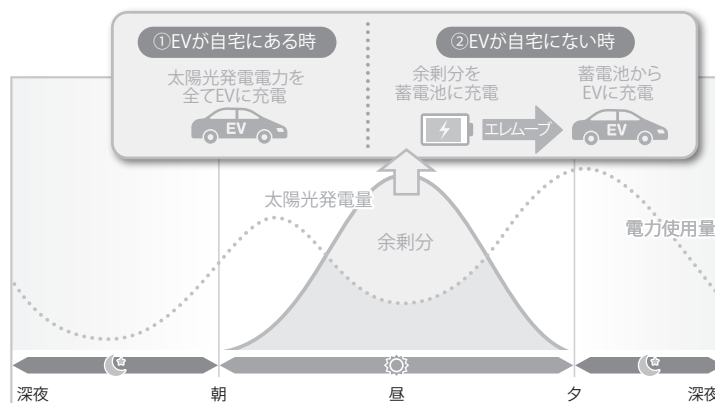
メモ

- 放電時間帯中に車両から放電を行えるようにするには、「車両放電有無」(37 ページ) の設定が必要となります。
- 太陽光発電がない場合は、グリーンモードおよび売電モードは同じ動作になります。
- 充放電時間帯の設定については、「V2H システムの充放電時刻を設定する」(31 ページ) を参照してください。

EV モード (蓄電池ユニット併設時のみ設定可能)

車両が V2H システムに接続されていない間、太陽光発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰分を蓄電池ユニットに充電します。車両が V2H システムに接続され次第、蓄電池ユニットから車両へ充電電力を移動 (エレムープ充電) しますが、その際に太陽光発電があった場合は、発電電力もすべて車両へ充電します。太陽光発電電力で車両を走らせた方にお勧めのモードです。なお、エレムープ充電によって車両が満充電にならなかった場合は、「売電モード」の「充電時間帯」に電力会社の電力から車両の充電を行います。

また、本モードで動作している間は車両および蓄電池ユニットから家庭内負荷への放電を行いませんが、車両が満充電のときのみ、蓄電池ユニットから家庭内負荷への放電を行います。



重要：車両充放電動作時に利用できる車両の充放電範囲について

充電を停止する車両の蓄電池残量について（車両充電上限値）

車両は室内リモコンで設定する①「車両充電上限値」、または車両ごとに決められた②「充電可能上限値」に達すると充電を停止します。

①室内リモコンで設定する「車両充電上限値」

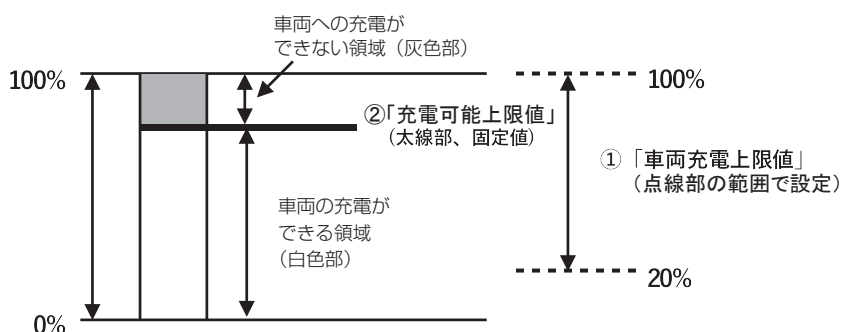
- 太陽光発電電力の余剰充電用の空き容量を確保するため、電力会社の電力による充電の上限値
- お客様にて設定可能（20% ～ 100% まで）

②車両ごとに定められた「充電可能上限値」

- 車両により定められたそれ以上充電できない車両の蓄電池残量値
- 車両により定められており、変更不可
- 車両ごとに定められた「充電可能上限値」はニチコンホームページを参照してください。

https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

- 室内リモコンで設定する「車両充電上限値」と、車両ごとに定められた「充電可能上限値」のうち、低い方が優先となります。



<例>

お客様が i-MiEV をお持ちのとき、室内リモコンで①「車両充電上限値」を 100% に設定した場合でも、i-MiEV の②「充電可能上限値」95% に達すると充電を止めます。

放電を停止する車両の蓄電池残量について（車両放電下限値・非常時車両放電下限値）

車両は室内リモコンで設定する①「車両放電下限値」、または車両ごとに決められた②「放電可能下限値」に達すると放電を停止します。

①室内リモコンで設定する「車両放電下限値」（「非常時車両放電下限値」）

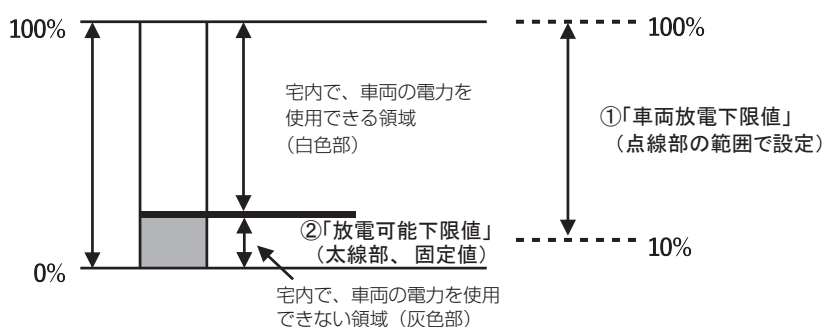
- 停電時または走行に備え残しておく、車両の蓄電池残量値
- お客様にて設定可能（10% ～ 100% まで 10% 刻み）

②車両ごとに定められた「放電可能下限値」

- 車両により定められた最低残しておかなければならない車両の蓄電池残量値
- 車両により定められており、変更不可
- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」はニチコンホームページを参照してください。

https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」と、車両ごとに定められた「放電可能下限値」のうち、下限値が高い方が優先となります。



<例>

お客様が i-MiEV をお持ちのとき、室内リモコンで①「車両放電下限値」を 10% に設定した場合でも、i-MiEV の②「放電可能下限値」30% に達すると放電を止めます。

※放電中の動作について

電力会社との取り決めにより、蓄電システムは放電中に微量電力を買電します。

メモ

- 太陽光発電システムと異なり、送電線へ電力を逆流させない決まりとなっています。
- 負荷容量が 100W 未満の場合および負荷容量と太陽光発電容量が均等になる場合は、室内リモコンの表示が放電と待機で繰り返し切り替わることがあります。
- 発電電力が多く、売電電力が定格出力を超える場合には、蓄電池ユニットが充電できる状態であれば、定格出力を超える電力を、自動的に充電します。

手動運転モード

蓄電池充電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

時間帯に関係なく、蓄電池ユニットへ充電を行うモードです。

詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの各運転モードについて（連系時）」を参照してください。

車両充電

時間帯に関係なく、車両へ充電を行うモードです。

太陽光発電電力を優先的に使用して車両への充電を行います。太陽光発電の電力量によって動作が以下の通りに変わります。

- 太陽光発電から車両への充電電力に余剰がある場合は、余剰電力を家庭内へ供給もしくは売電します。
- 太陽光発電から車両への充電電力が不足する場合は、不足分を電力会社から電力を購入して車両へ充電します。

車両が満充電になり次第充電動作を終了し、車両のコネクタロックを自動的に解除します。引き続き動作させたい場合は、ご希望の運転モードを設定してください。

メモ

- 蓄電池ユニットを併設している場合、車両充電を設定すると、蓄電池ユニットは待機状態になります。
- 充電動作が終了し、車両のコネクタロックが解除されてから 6 時間が経過すると、車両充電が設定される直前の自動運転モードで動作します。

拡張充電

時間帯に関係なく、車両へ最大 9.9kW の充電を行うモードです。車両を早く充電したい方にお勧めです。

太陽光発電電力を使用して車両への充電を行います。蓄電池ユニットを併設していれば蓄電池ユニットの電力も使用して充電を行います。太陽光発電と蓄電池ユニットの電力でもさらに不足する場合は、不足分を電力会社から電力を購入し充電します。車両が満充電になり次第充電動作を終了し、車両のコネクタロックを自動的に解除します。引き続き動作させたい場合は、ご希望の運転モードを設定してください。

メモ

- 太陽光発電の発電量が極端に少ないと、蓄電池ユニットおよび電力会社からの電力を使用しても 9.9kW で充電ができない場合があります。(5.9 ～ 9.9kW の間で変動)
- 車両への充電電力は、車両の蓄電池電圧（車種や残量）あるいは温度等により変わります。(5.9 ～ 9.9kW の間で変動)
- 充電動作が終了し、車両のコネクタロックが解除されてから 6 時間が経過すると、拡張充電が設定される直前の自動運転モードで動作します。

エレムーブ充電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。

車両が接続されていない間に、太陽光発電電力や夜間の電気料金が割安な電力を一旦蓄電池ユニットに蓄えておき、移動させることで、より経済的に車両への充電を行うことができます。

車両が満充電になるか蓄電池ユニットの残量がゼロになると動作を終了し、待機状態になります。引き続き動作させたい場合は、ご希望の運転モードを設定してください。

メモ

- エレムーブ充電で動作している間は、本製品から家庭内負荷への放電を行いません。
- エレムーブ充電中に太陽光が発電している場合は、太陽光発電電力もエレムーブ充電に使われます。なお、外付け太陽光発電の電力は使われません。
- エレムーブ充電が終了し、待機状態になってから 6 時間が経過すると、エレムーブ充電が設定される直前の自動運転モードで動作します。

V2H システムの運転モードを選ぶ（連系時）

通常時の運転モードをお客様のお好みに合わせて選択してください。

重要

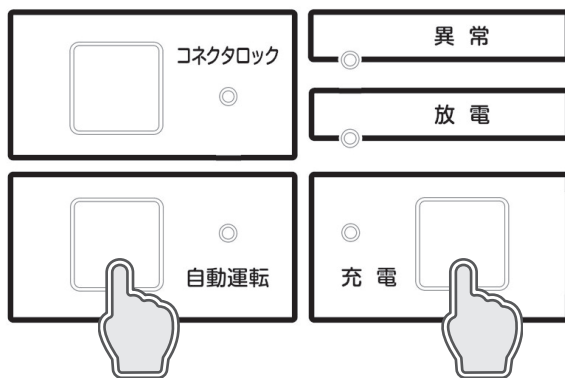
充放電時間帯中は、充放電を行っていない場合でも車両と V2H システム間の通信維持のため、車両の蓄電池が電力を消費します。

- 通常は自動運転モードを選択してください。各運転モードの詳細は 24 ページを参照してください。
- 製品出荷時の設定は「グリーンモード」です。

V2H システムの操作ボタンで行う場合

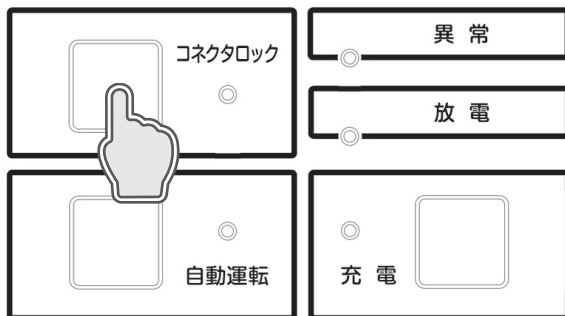
1 「自動運転」または「充電」ボタンをタッチする

■表示・操作部



- 自動運転：
直前に設定された自動運転モードを開始します。
動作を開始すると、「自動運転」表示が緑色に点灯します。
- 充電：
手動運転モードの車両充電を開始します。
動作を開始すると、「充電」表示が橙色に点灯します。

※V2H システムの運転動作を停止する場合



V2H システム表示・操作部の「コネクタロック」ボタンを押します。コネクタロックが解除され、V2H システムの動作を停止します。
この時、すべてのランプが消灯します。

※V2H システムを非常停止する場合

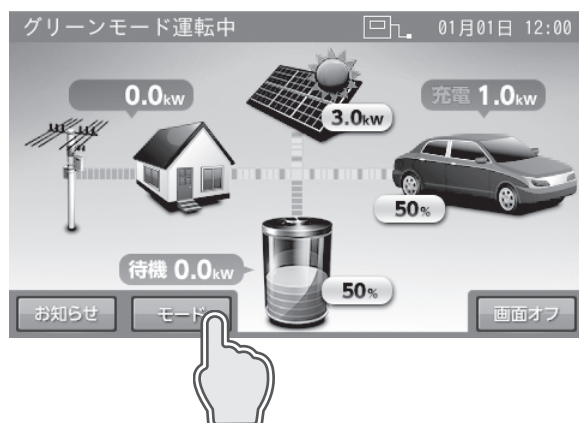
■緊急時操作部



V2H システムに何らかの異常が発生した際は、V2H システム緊急時操作部の「非常停止」ボタンカバーを開けて押すことで、コネクタロックを解除し、V2H システムを非常停止させることができます。
非常停止を解除する場合は、異常の原因が解消したことを確認してから、再度「非常停止」ボタンを押してください。
なお、非常停止を解除した後もコネクタロックは解除されたままとなりますので、引き続き動作させたい場合は、ご希望の運転モードを再度設定してください。

室内リモコンで行う場合

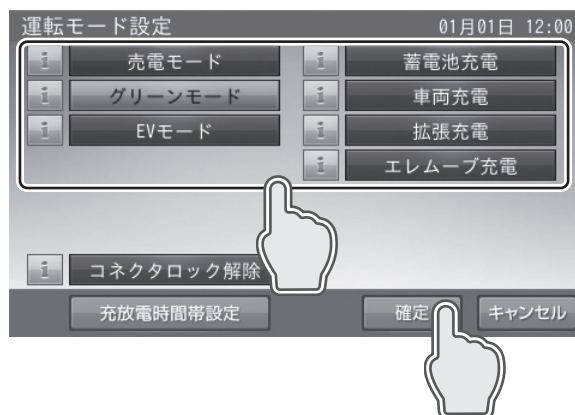
1 「モード」をタッチする



「運転モード設定」画面に切り替わります。

2 運転モードを選択し、「確定」をタッチする

■例：コネクタロック状態の場合

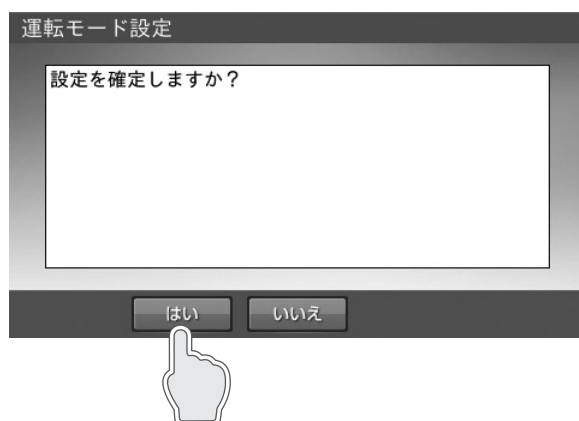


運転モード選択後、「確定」をタッチします。

メモ

- 運転モード設定画面を操作中は、V2H システム側でコネクタロックを解除しないでください。途中で解除した場合は、運転モードが正しく設定されない可能性があります。
- 蓄電池ユニットを併設していない場合は、「EV モード」、「蓄電池充電」、「エレムーブ充電」は表示されません。
- コネクタロックが解除状態の場合は、「車両充電」、「拡張充電」、「エレムーブ充電」は表示されません。選択したい場合は、コネクタロック状態にしてください。
- モードの選択を変更した状態で「キャンセル」をタッチすると、「設定が変更されています。変更を破棄してホーム画面に戻りますか？」の確認画面を表示します。「はい」または「いいえ」をタッチすると、ホーム画面または運転モード設定画面に戻ります。

3 「はい」をタッチする



「ホーム」画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。
- コネクタロックを解除すると V2H システムの動作はすべてキャンセルされるため、コネクタロック時に再度モードの選択が必要となります。
- 選択した運転を止めたい場合は、選択した運転モード以外のモードを選択すると、再選択したモードで動作します。

V2H システムの充放電時刻を設定する

通常運転時の充電開始 / 停止時刻、放電開始 / 停止時刻を運転モードごとに設定できます。

- 製品出荷時の設定は次のとおりです。

	グリーンモード	売電モード
充電開始時刻 / 停止時刻※ ¹	01:00 ~ 01:01	01:00 ~ 05:59
放電開始時刻 / 停止時刻※ ²	01:02 ~ 00:50	06:00 ~ 00:50

充電開始時刻 / 停止時刻…車両または蓄電池ユニットに電力会社の電力で充電するときの開始 / 停止時刻を設定できます。※¹
放電開始時刻 / 停止時刻…車両または蓄電池ユニットから放電するときの開始 / 停止時刻を設定できます。※²

※¹：グリーンモードの太陽光発電電力で充電する開始 / 停止時刻ではありません。太陽光発電電力での充電は、放電時間帯で太陽光発電がある場合に実施されます。

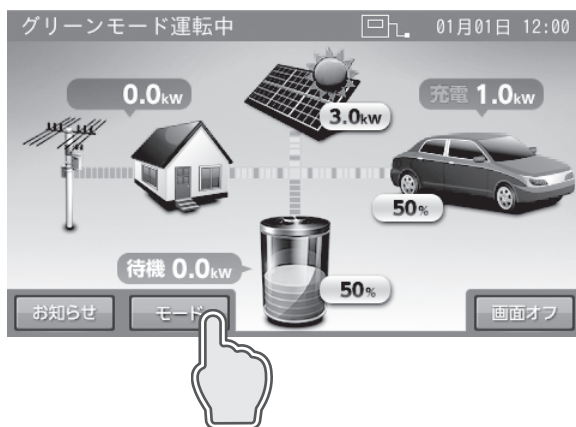
※²：接続している車両の蓄電池容量が 10kWh 未満の場合、自動運転モードの放電時間は 1 日 10 時間までに制限されます。詳しくは「EV 放電制限設定を設定する」(33 ページ) を参照してください。

- 充放電時間帯の合計は 23 時間 50 分以内としてください。
- 充放電時間帯が重複しないように設定してください。

メモ

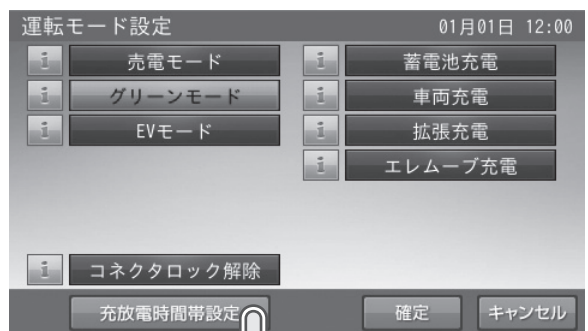
- 優先度の設定によっては、設定した時刻に放電が始まらない場合があります。詳しくは「放電優先設定」(37 ページ) を参照してください。
- また、太陽光発電電力を売電している場合は、放電時間帯であっても車両および蓄電池ユニットから放電できません。
- 売電モード利用時に充電時間帯を短く設定すると、車両および蓄電池ユニットが 100% まで充電できない場合があります。
- グリーンモード利用時に充電時間帯を長く設定すると、昼間の太陽光発電電力による充電があまりできなくなります。夜間の電力会社の電力による充電で満充電にならないよう、充電時間を短く設定するか、「車両充電上限値」(37 ページ) の設定をご利用ください。

1 「モード」をタッチする



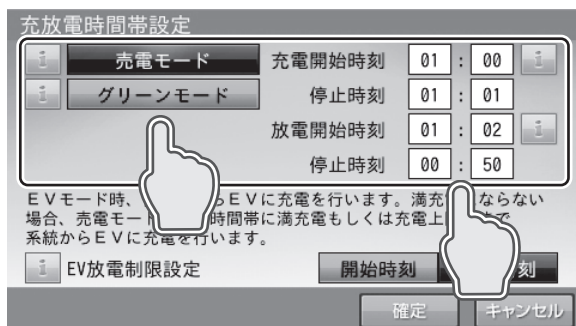
「運転モード設定」画面に切り替わります。

2 「充放電時間帯設定」をタッチする



「充放電時間帯設定」画面に切り替わります。

3 設定したい運転モードをタッチする



選択した運転モードの充放電時間を設定します。
設定したモードの充電開始時刻 / 停止時刻、および放電開始時刻 / 停止時刻を確認し、変更したい項目の時刻をタッチします。

メモ

「売電モード」「グリーンモード」は、それぞれ別の時刻を設定できます。

4 「数値キー」をタッチする

■例：放電時刻



時刻を設定します。
数字キーをタッチすると、新しい時刻を入力できます。
← / → をタッチすると、カーソルが移動します。
カーソルがある位置で「消去」をタッチすると、入力文字を消すことができます。

メモ

- 「キャンセル」をタッチすると、充放電時間帯設定の画面に戻ります。
- 充放電時間帯の合計は 23 時間 50 分以内としてください。
- 充放電時間は重複して設定できません。

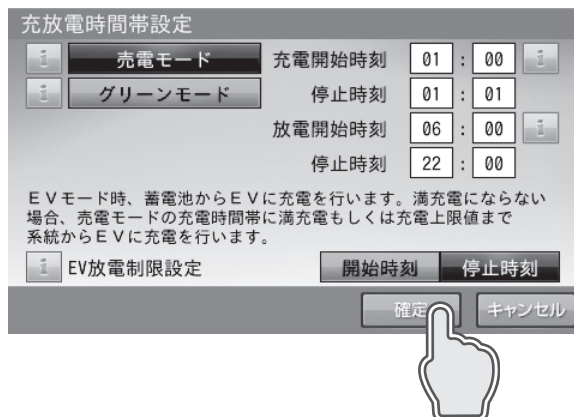
次ページへ続く

5 「決定」をタッチする



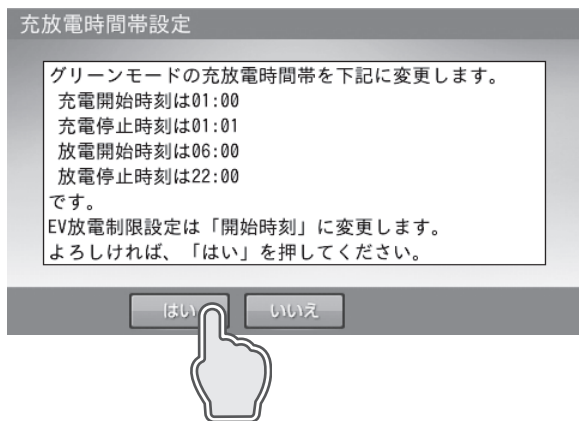
「充放電時間帯設定」画面に切り替わります。

6 「確定」をタッチする



設定を確定します。

7 「はい」をタッチする

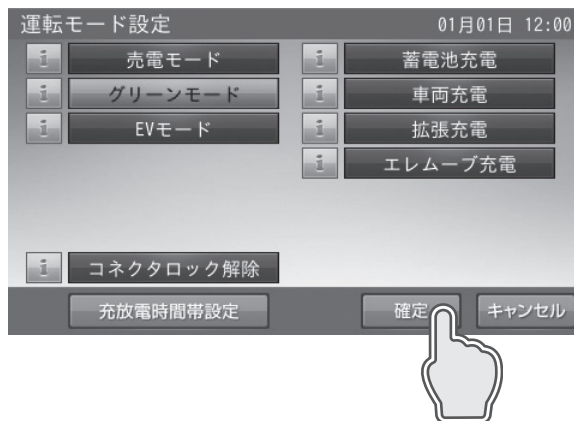


設定した時刻を確定し、「運転モード設定」画面に切り替わります。

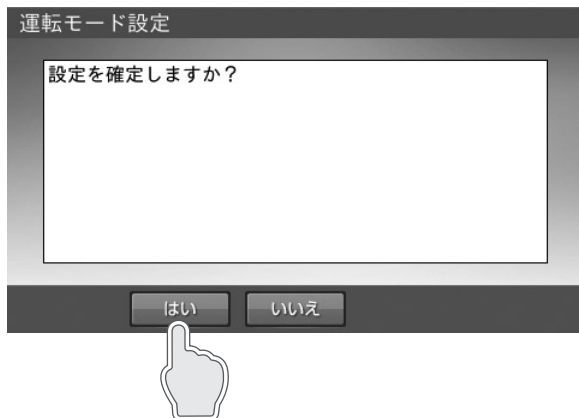
メモ

- 充電と放電の時間帯が重複しないように設定してください。誤った設定をすると確認画面が表示されるので、「戻る」をタッチして再設定してください。
- 充電時間と放電時間の合計は、23 時間 50 分以内に設定してください。範囲外の設定をすると確認画面が表示されるので、「戻る」をタッチして再設定してください。

8 「確定」をタッチする



9 「はい」をタッチする



「ホーム」画面に戻ります。

メモ

「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。

EV 放電制限設定を設定する

車両の蓄電池容量が 10kWh 未満の場合にのみ表示される設定です。

重要

接続された車両の蓄電池容量が 10kWh 未満の場合（例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）は、車両の蓄電池を保護するため、自動運転モードの放電時間帯が 1 日 10 時間に制限されます。

本機能では、制限がかかる放電時間帯の開始時刻を設定することができます。車両の蓄電池容量が 10kWh 未満の車両を接続した場合は、本設定を必ず確認してください。

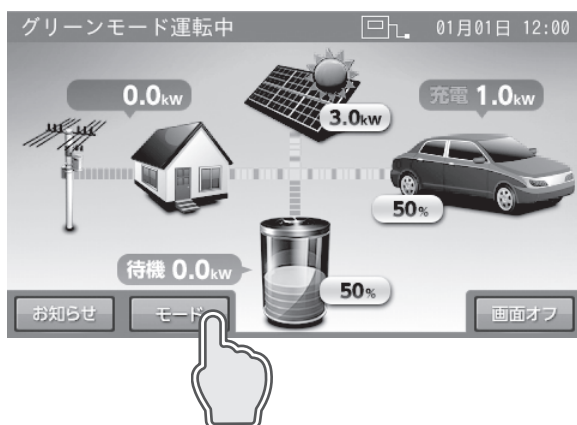
※車両の蓄電池容量が 10kWh 以上の場合と同様に、充電時間と放電時間の合計は 23 時間 50 分以内で設定してください。

※手動運転モードおよび停電時利用の場合は、10 時間の放電時間制限はありません。

なお、車両の蓄電池容量が 10kWh 以上の場合は、本設定は表示されません。

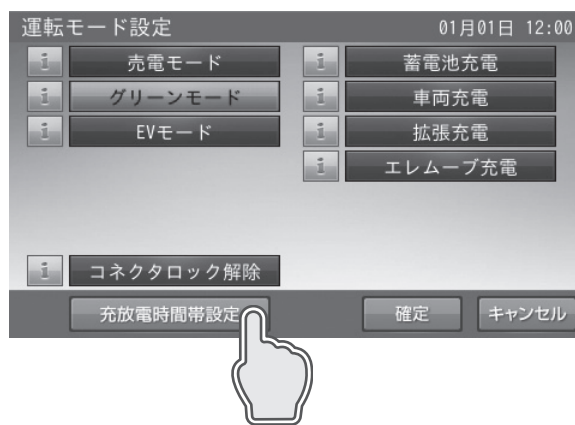
- 設定値：開始時刻、停止時刻
- 製品出荷時の設定値は「開始時刻」です。

1 「モード」をタッチする



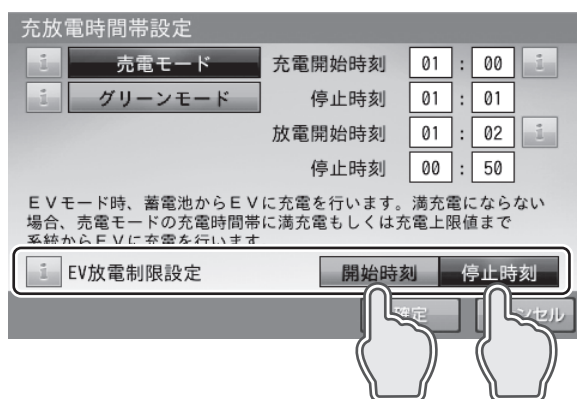
「運転モード設定」画面に切り替わります。

2 「充放電時間帯設定」をタッチする



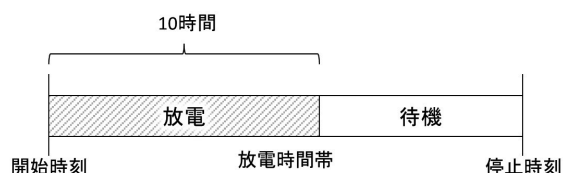
「充放電時間帯設定」画面に切り替わります。

3 EV 放電制限設定を選択し、「確定」をタッチする



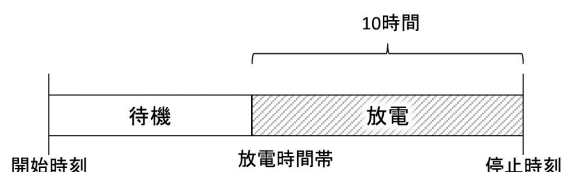
制限がかかる放電時間帯の開始時刻を選択します。

- 「開始時刻」：



放電開始時刻で設定した時刻から 10 時間後までが、車両の放電時間帯となります。

- 「停止時刻」：

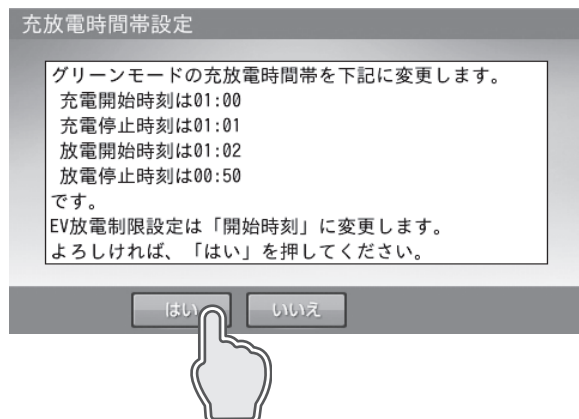


放電停止時刻で設定した時刻から遡って 10 時間前からが、車両の放電時間帯となります。

放電開始 / 停止時刻を変更したい場合は、「V2H システムの充放電時刻を設定する」(31 ページ) を参照してください。

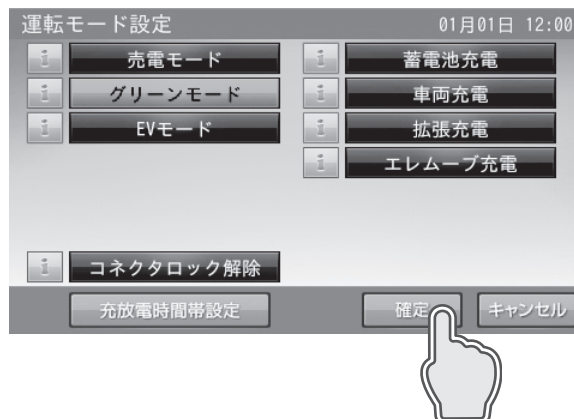
次ページへ続く

4 「はい」をタッチする

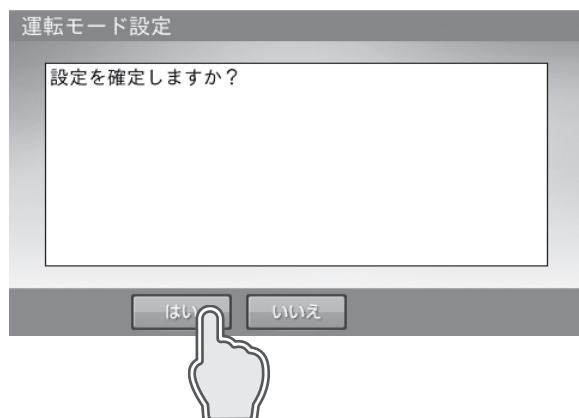


設定を確定し、「運転モード設定」画面に切り替わります。

5 「確定」をタッチする



6 「はい」をタッチする



「ホーム」画面に戻ります。

メモ

「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。

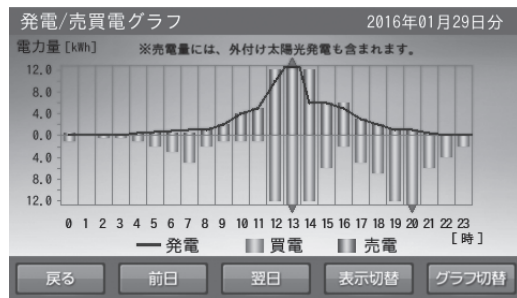
各グラフについて

「発電 / 売買電グラフ」、「蓄電池充放電グラフ」、「車両充放電グラフ」を表示できます。

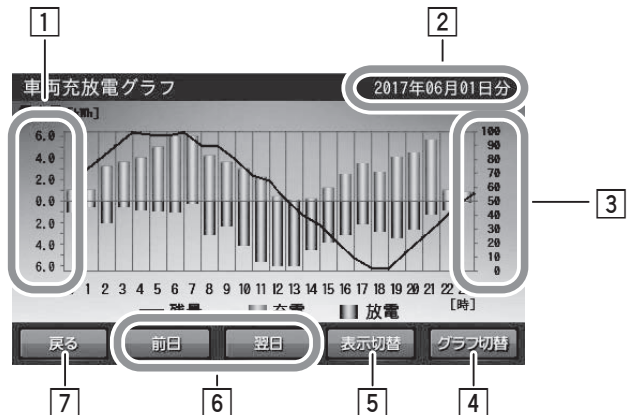
- 発電 / 売買電グラフ※：太陽光の発電電力量（kWh）および売電・買電電力量（kWh）を表示します。
- 蓄電池充放電グラフ※：蓄電池の充放電電力量（kWh）および蓄電池残量（%）（日別）を表示します。
- 車両充放電グラフ：車両充放電電力量（kWh）および車両蓄電池残量（%）（日別）を表示します。

※「発電 / 売買電グラフ」および「蓄電池充放電グラフ」については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

発電 / 売買電グラフ



車両充放電グラフ



「グラフ切替」ボタンでグラフを切り替え

1 電力量 [kWh]

- 充電電力量：棒グラフ（オレンジ）で上側に棒の長さで表示します。
- 放電電力量：棒グラフ（緑色）で下側に棒の長さで表示します。

2 日付表示

表示しているグラフの日付を表示します。日付を変更したい場合は、ここをタッチしてください。「日付入力画面」に切り替わります。

3 車両蓄電池残量表示 [%]

車両の蓄電池残量を折れ線グラフで表示します。

4 グラフ切替ボタン

「発電 / 売買電グラフ」→「蓄電池充放電グラフ」→「車両充放電グラフ」の順に切り替わります。

※「発電 / 売買電グラフ」および「蓄電池充放電グラフ」については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

5 表示切替ボタン

「日別」⇒「月別」⇒「年別」⇒「日別」の順に切り替わります。

6 前日 / 翌日ボタン

表示されているグラフの前日 / 翌日のグラフを表示します。月別表示のときは月ごと、年別表示のときは年ごとに表示が切り替わります。

7 戻るボタン

「各種設定 / グラフ」画面に戻ります。

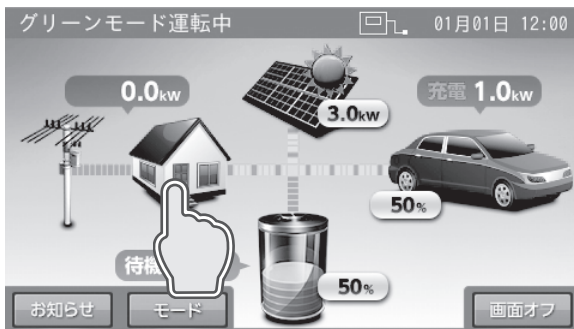
メモ

- 本システムの設置時から現在までの過去最大 10 年間相当のグラフを表示し、10 年を超えると古い日付のデータから削除されます。
- グラフおよび表示量は目安です。測定条件などの違いにより、他の機器（HEMS など）と異なる場合があります。
- 室内リモコンの電源を切っている間のデータは、データが保存されないため表示できません。
- 日時設定を変更したときは、一部またはすべてのデータが削除または上書きされます。HEMS や NTP との時刻同期により日時設定が変更されたときも同様です。
- パワーコンディショナの修理・交換を行った場合、各グラフのデータがリセットされる場合があります。

グラフの表示方法

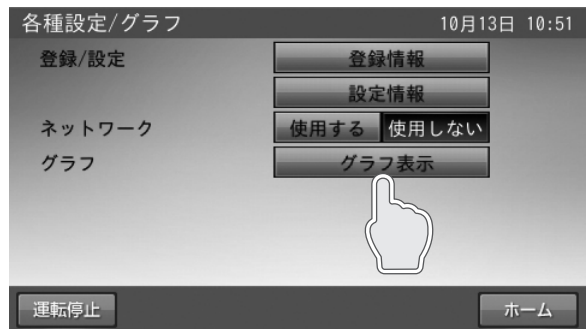
グラフを表示する

1 「家アイコン」をタッチする



「各種設定 / グラフ」画面に切り替わります。

2 「グラフ表示」をタッチする



「発電 / 売買電グラフ」画面に切り替わります。

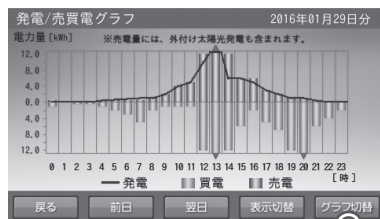
メモ

- 発電 / 売買電グラフの日別を表示します。
- 室内リモコン上の現在時刻までのデータを表示します。

3 「グラフ切替」をタッチして「車両充放電グラフ」を表示する

グラフの切替順は以下のとおりです。

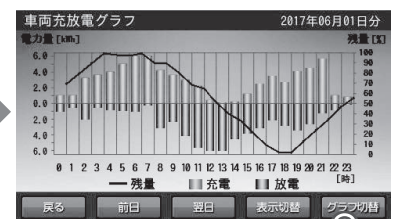
< 発電 / 売買電グラフ >



< 蓄電池充放電グラフ >



< 車両充放電グラフ >

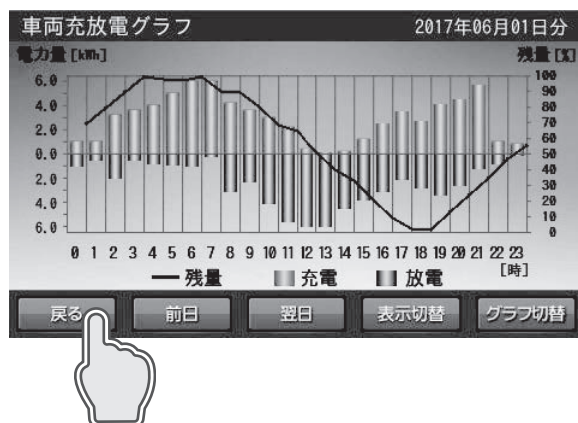


メモ

蓄電池ユニットを併設していない場合は、「蓄電池充放電グラフ」は表示されません。

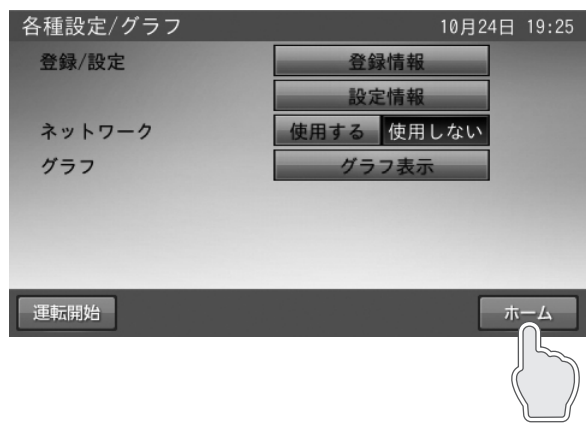
< ホーム画面に戻る場合 >

4 「戻る」をタッチする



「各種設定 / グラフ」画面に戻ります。

5 「ホーム」をタッチする



「ホーム」画面に戻ります。

下記操作方法については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

- グラフ期間を変更する
- グラフの年、月、日を設定して変更する（日間表示の場合）

V2H システムの詳細設定について

V2H システムに関わる各種設定を行います。

本設定は、コネクタロック解除状態でも設定できます。また、設定後にコネクタロックを解除しても、次回利用時に前回と同じ設定で問題なければ、再度設定する必要はありません。

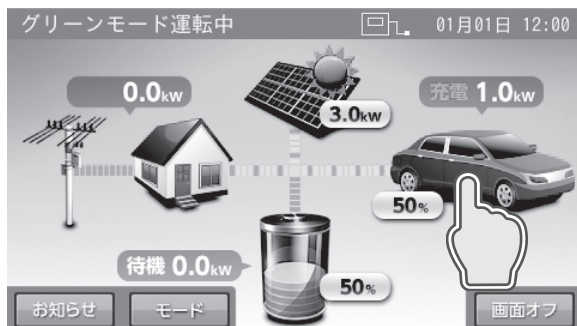
項目	出荷時設定	内容および設定値
車両充電上限値	100%	電力会社の電力で車両を充電する際に、指定した上限値で充電を停止する設定です。グリーンモード利用時に太陽光発電の余剰電力をできるだけ多く充電できるように、電力会社の電力で充電する容量を少なくしたい場合などに設定してください。 - 太陽光発電電力による余剰充電は本設定の対象外となり、上限値を超えて充電されます。また、手動運転モードの「車両充電」、「拡張充電」および「エレムーブ充電」も同様に対象外となります。 「車両放電下限値」が「車両充電上限値」を上回る、もしくは同じ値となる設定にすると、車両は充放電を行わなくなります。ただし、太陽光余剰電力による充電は設定値に関係なく行われます。 - 室内リモコンで設定する「車両充電上限値」と、車両ごとに定められた「充電可能上限値」のうち、低い方が優先となります。（例：「車両充電上限値」が 100%、「充電可能上限値」が 70% の場合、70% まで充電を行います。） 設定値 20%、30%、40%、50%、60%、70%、100%
車両放電下限値	10%	車両から放電を行う際に、指定残量までで放電を止めるように制限します。もしもの停電や、台風、計画停電などの停電にあらかじめ備えるときは、設定を切り替えることで、安心してお使いいただけます。 なお、設定後から車両の蓄電池残量の制御を開始するため、必要の際は前日までに切り替えてください。 「車両放電下限値」が「車両充電上限値」を上回る、もしくは同じ値となる設定にすると、車両は充放電を行わなくなります。 - 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」と、車両ごとに定められた「放電可能下限値」のうち、下限値が高い方が優先となります。（例：「車両放電下限値」が 30%、「放電可能下限値」が 40% の場合、40% まで放電を行います。） 重要 充放電を行っていない場合でも車両と V2H システム間の通信維持のため、車両の蓄電池が電力を消費します。それにより、車両の蓄電池残量が車両放電下限値を下回る場合があります。 設定値 10%、20%、30%、40%、50%、60%、70%、80%、90%、100%
車両放電有無	する	車両からの放電を許可するか設定できます。 通常は車両の電力が利用できるように、「する」に設定してください。 設定値 「する」：車両からの放電を行います。 「しない」：車両からの放電を行いません。
放電優先設定 (蓄電池ユニット併設時のみ 設定可能)	蓄電池	自動運転モード動作時の家庭内への電力供給を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。 「車両放電有無」を「しない」に設定した場合は、本設定は機能しません。 設定値 「蓄電池」：蓄電池ユニットから優先して電力を供給します。蓄電池ユニットの残量がゼロ、または室内リモコンで設定する「蓄電池放電下限値*」に達すると、車両からの放電に切り替わります。 「車両」：車両から優先して電力を供給します。車両の蓄電池残量がゼロ、または室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」に達すると、蓄電池ユニットからの放電に切り替わります。
V2H スタンド本体操作	する	V2H システム本体の操作を有効もしくは無効にする設定です。長期ご不在時など、第三者の無断使用を防止する場合などに便利な機能です。お客様の用途にあわせて設定してください。 設定値 「する」：V2H システム本体での操作を受け付けます。 「しない」：V2H システム本体での操作を受け付けません。

※：詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの充電上限値・放電下限値を設定する」を参照してください。

項目	出荷時設定	内容および設定値	
非常時放電動作	する	停電時に車両からの放電を許可するか設定できます。 重要 「しない」を選択していると、停電時に太陽光発電や蓄電池ユニットなど他の電力供給源から電力が供給できない場合、車両から放電ができず蓄電システムが停止します。通常は停電時も車両の電力が利用できるように、「する」に設定してください。	
		設定値	「する」：停電時に車両から放電を行います。 「しない」：停電時に車両からの放電を行いません。
非常時車両放電下限値	10%	停電時に車両から放電を行う際に、指定残量までで放電を止めるように制限します。停電時に車両の蓄電池残量がゼロになって車両が走行できなくならないように、電力を残すことができます。 ● 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」と、車両ごとに定められた「放電可能下限値」のうち、下限値が高い方が優先となります。(例：「非常時車両放電下限値」が 30%、「放電可能下限値」が 40% の場合、40% まで放電を行います。)	
		設定値	10%、20%、30%、40%、50%、60%、70%、80%、90%、100%
非常時放電優先設定 (蓄電池ユニット併設時のみ 設定可能)	蓄電池	停電時の家庭内への電力供給を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。 ● 「非常時放電動作」を「しない」に設定した場合は、本設定は機能しません。	
		設定値	「蓄電池」：蓄電池ユニットから優先して電力を供給します。蓄電池ユニットの残量がゼロになると、車両からの放電に切り替わります。 「車両」：車両から優先して電力を供給します。車両の蓄電池残量がゼロ、または室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」に達すると、蓄電池ユニットからの放電に切り替わります。
非常時充電優先設定 (蓄電池ユニット併設時のみ 設定可能)	車両	停電時の充電を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。	
		設定値	「蓄電池」：蓄電池ユニットへ優先して充電します。蓄電池ユニットの残量が 100% になると、車両への充電に切り替わります。 「車両」：車両へ優先して充電します。車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「充電可能上限値」に達すると、蓄電池ユニットへの充電に切り替わります。

V2H システムの詳細設定を選ぶ

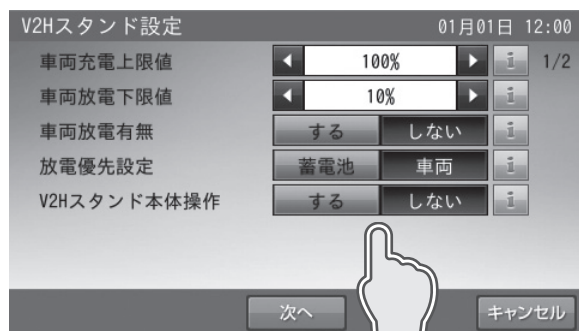
1 「車両アイコン」をタッチする



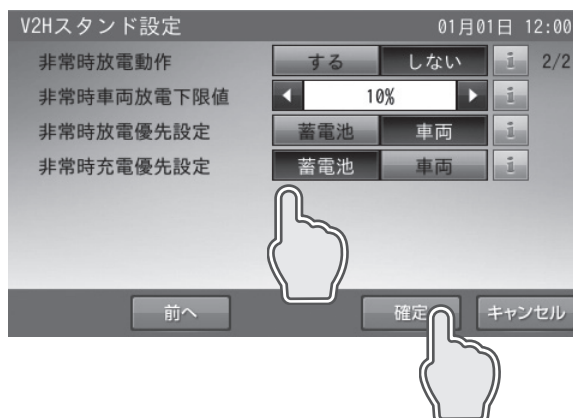
「V2H スタンド設定」画面に切り替わります。

2 各設定項目を変更し、「確定」をタッチする

< 1/2 ページ目 >



< 2/2 ページ目 >

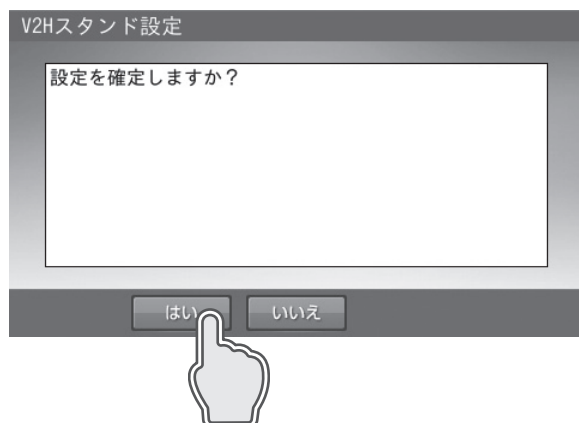


変更したい項目をタッチして選択してください。

メモ

- 「次へ」をタッチすると、ページを送ります。
- 「前へ」をタッチすると、前のページに戻ります。
- 各設定項目の設定を変更した状態で「キャンセル」をタッチすると、「設定が変更されています。変更を破棄してホーム画面に戻りますか？」の確認画面を表示します。「はい」または「いいえ」をタッチすると、ホーム画面または V2H スタンド設定画面に戻ります。

3 「はい」をタッチする



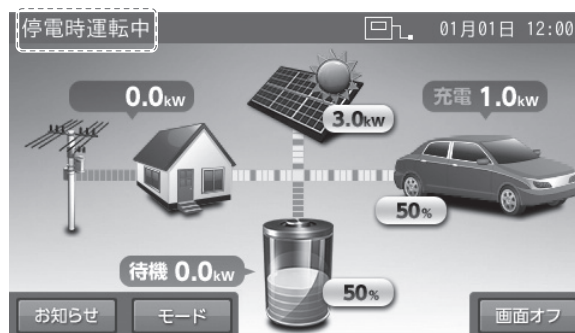
「はい」をタッチすると、設定が反映されホーム画面に戻ります。

メモ

「いいえ」をタッチすると、「V2H スタンド設定」画面に戻ります。

停電時の使い方（自立運転）

停電が発生した際は、本製品は停電時の運転に自動で切り替わり、ホーム画面上に「停電時運転中」を表示します。



V2H システムの停電時運転モードについて

停電時は、以下の運転モードを選択することができます。

運転モード	設定できる運転モード	内容
自動運転モード (停電時)	自動給電切換設定	停電時の車両および蓄電池ユニットの充電や放電の切り替えを自動で行うモードです。
手動運転モード (停電時)	蓄電池充電 ※1	停電時に強制的に蓄電池ユニットへ充電するモードです。
	車両充電 ※2	停電時に強制的に車両へ充電するモードです。
	エレムーブ充電 ※3	停電時に蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。
	エレムーブ放電 ※3	停電時に車両から蓄電池ユニットへ電力を移動するモードです。

※ 1：蓄電池ユニット併設時のみ設定可能となります。

※ 2：コネクタロック状態の時のみ設定可能となります。

※ 3：蓄電池ユニット併設時かつコネクタロック状態の時のみ設定可能となります。

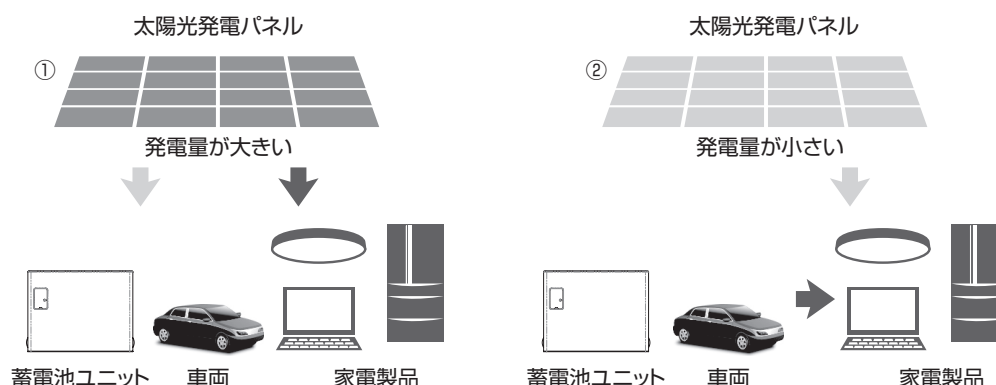
- 製品出荷時の設定および停電した際の運転モードは「自動給電切換設定」です。

自動運転モード（停電時）

自動給電切換設定

太陽光発電電力とご家庭内の家電製品の電力使用量を判断しながら、車両もしくは蓄電池ユニットの放電や充電の切り替えを自動で行います。通常は、こちらをご利用ください。

なお、車両もしくは蓄電池ユニットの放電や充電は、「非常時放電優先設定」および「非常時充電優先設定」（38 ページ）に従って動作します。



①太陽光発電電力を家電製品に給電し、余剰電力を車両もしくは蓄電池ユニットに充電します。

②太陽光発電電力が不足している場合や、発電していない場合は、車両もしくは蓄電池ユニットから家電製品に給電します。

メモ

V2H システムの「非常時放電動作」が「しない」に設定されている場合は、車両から放電しません。（38 ページ）

次ページへ続く

手動運転モード（停電時）

蓄電池充電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

停電時の蓄電池充電は、太陽光発電から蓄電池ユニットへの充電のみ行います。

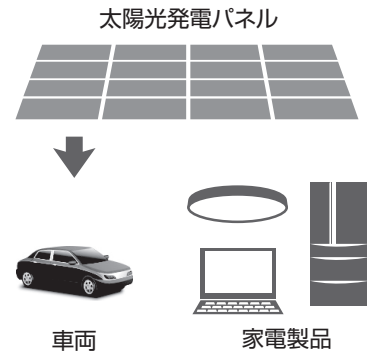
詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの停電時運転モードについて」を参照してください。

車両充電

停電時の車両充電は、太陽光発電から車両への充電のみ行います。

充電動作中は、家電製品への給電を一切行いません。

充電完了後は、待機状態となりますので、「自動給電切換設定」に切り替えてください。



エレムープ充電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。

下記の条件を満たした場合、エレムープ充電を終了し「自動給電切換設定」に自動的に切り替わります。

- 車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「充電可能上限値」になった場合
- 蓄電池ユニットの残量がゼロになった場合

エレムープ放電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

車両から蓄電池ユニットへ電力を移動するモードです。

下記の条件を満たした場合、エレムープ放電を終了し「自動給電切換設定」に自動的に切り替わります。

- 蓄電池ユニットが満充電になった場合
- 車両の蓄電池残量が「非常時車両放電下限値」もしくは車両ごとに定められた「放電可能下限値」になった場合

重要

エレムープ充電およびエレムープ放電中は、家庭内へ一切電力供給ができません。

メモ

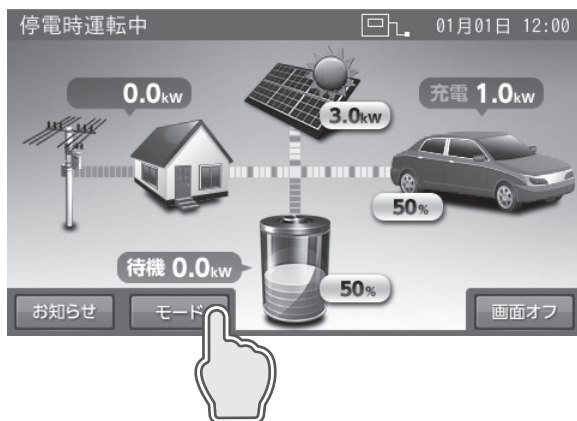
停電時運転モードは、停電発生時のみ設定可能です。

V2H システムの停電時運転モードを選ぶ（停電時）

停電発生時は、停電時運転モードをお客様のお好みに合わせて選択してください。

- 製品出荷時の設定および停電した際の運転モードは、「自動給電切換設定」です。

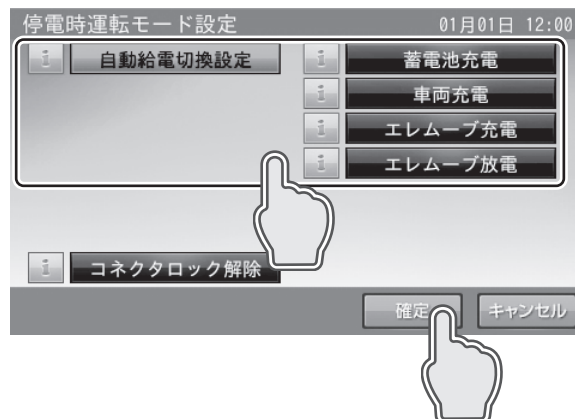
1 「モード」をタッチする



「停電時運転モード設定」画面に切り替わります。

2 運転モードを選択し、「確定」をタッチする

■例：コネクタロック状態の場合

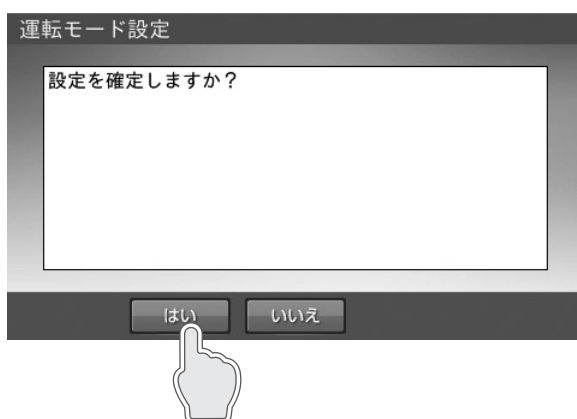


運転モード選択後、「確定」をタッチします。

メモ

- 停電時運転モード設定画面を操作中は、V2H システム側でコネクタロックを解除しないでください。途中で解除した場合は、運転モードが正しく設定されない可能性があります。
- 蓄電池ユニットを併設していない場合は、「蓄電池充電」、「エレムープ充電」、「エレムープ放電」は表示されません。
- コネクタロックが解除状態の場合は、「車両充電」、「エレムープ充電」、「エレムープ放電」は表示されません。選択したい場合は、コネクタロック状態にしてください。
- モードの選択を変更した状態で「キャンセル」をタッチすると、「設定が変更されています。変更を破棄してホーム画面に戻りますか？」の確認画面を表示します。「はい」または「いいえ」をタッチすると、ホーム画面または停電時運転モード設定画面に戻ります。

3 「はい」をタッチする



「ホーム」画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。
- コネクタロックを解除すると V2H システムの動作はすべてキャンセルされるため、コネクタロック時に再度モードの選択が必要となります。
- 選択した運転を止めたい場合は、選択した運転モード以外のモードを選択すると、再選択したモードで動作します。

停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法

※車種によっては記載内容と異なる操作が必要となる場合があります。詳しくは車両の取扱説明書を参照してください。

停電時、太陽光発電電力が無い状態で、車両がコネクタロックしていないとき、またはコネクタロックしているが充放電時間帯以外のときは、V2H システムが停止します。

(蓄電池ユニットを併設している場合は、その後も蓄電池ユニットの電力で動作を維持しますが、残量が無くなると V2H システムが停止します)

V2H システムが停止すると、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」よりも残っている場合は、充放電コネクタを車両に接続し下記の操作を行って本システムを起動してください。

重要

車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回っている場合は、起動できません。その場合は太陽光が発電でき次第起動できます。ただし、太陽光発電電力によって V2H システムを起動した場合は、コネクタロックは解除されたままとなります。車両を動作させたい場合は、コネクタロックをしてください。(19 ページ)

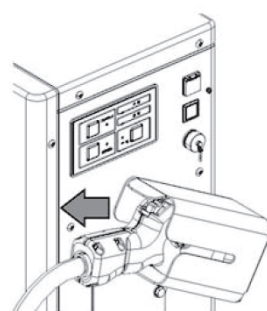
なお、下記の操作により起動させた場合でも、車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った場合は、V2H システムが停止します。

1 車両を準備する

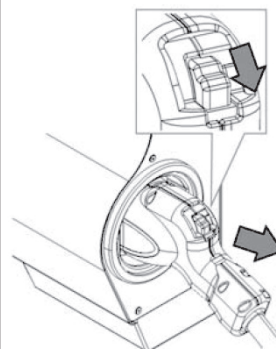
V2H システムと接続するために以下①～④に従って、車両側の準備をしてください。

- ①車両のシフトレバーを P (パーキング) 位置にする。
- ②車両のメーターパネルを OFF の状態にする。
- ③パーキングブレーキをかける。
- ④車両の充電口を開く。

2 V2H システムから充放電コネクタを取り出す



V2H スタンド(一体型)

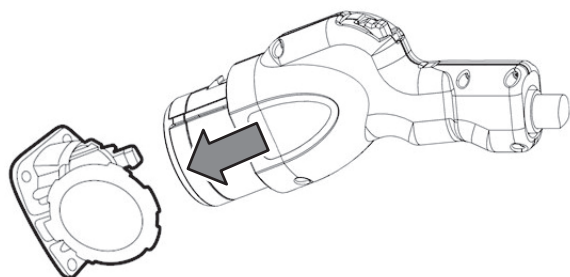


V2H ポッド

V2H ポッドから取り出す場合は、解除レバーを下に押して、充放電コネクタを引き抜いてください。

停電時の使い方 (自立運転)

3 充放電コネクタを車両に接続する



充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。「カチッ!」と音がするまで押し込んでください。

メモ

充放電コネクタ接続中は、車両を移動しないでください。車両の充電口や充放電コネクタが破損する可能性があります。

4 車両の電源ソケットに付属品の 12V 電源ケーブルを接続し、車両の ACC (アクセサリ) を ON にする

車両のドアは閉じた状態にし、窓から 12V 電源ケーブルを外に出してください。

例: 12V 電源ケーブル

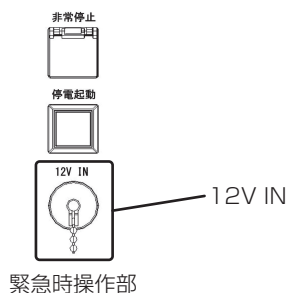


メモ

ソケット位置および接続については、車両の取扱説明書を確認してください。

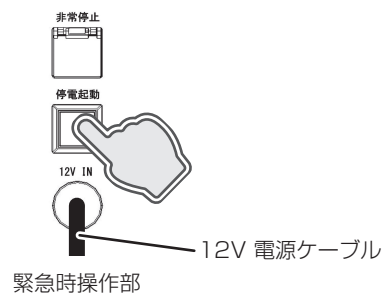
次ページへ続く

5 V2Hシステム右側面の 12V IN に 12V 電源ケーブルを接続する



- ① 「12V IN」のキャップを外す。
- ② 12V 電源ケーブルを「12V IN」に接続する。
- ③ ケーブルのカップリングを回して、ケーブルを「12V IN」に固定する。

6 V2Hシステムの「停電起動」ボタンを押す



7 車両から放電状態を確認した段階で、車両の ACC（アクセサリ）を OFF にする

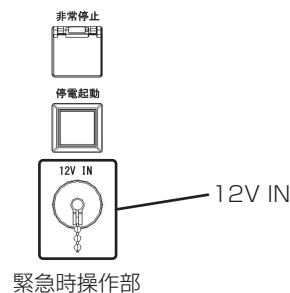
重要

車両の消費電力が多くなり、車両の蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両の ACC（アクセサリ）を必ず「OFF」にしてください。

メモ

車両の ACC（アクセサリ）を ON にしても、すぐに放電が始まらない場合があります。その場合は ON にしてから約 1 分間経過したあとに、再度操作してください。
約 1 分間経過しても放電が始まらない場合は、車両の ACC（アクセサリ）が ON になっているか再度確認してください。

8 V2Hシステム右側面の 12V IN から 12V 電源ケーブルを取り外す



車両から放電状態を確認した後、12V 電源ケーブルを取り外してください。

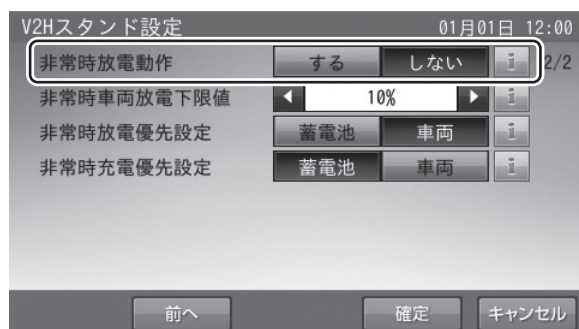
9 車両の電源ソケットから 12V 電源ケーブルを取り外す

メモ

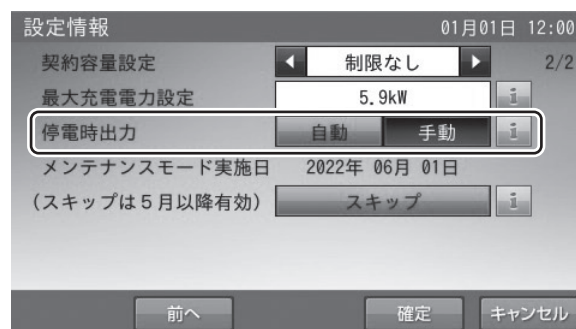
- 本操作で起動できない車種は、充放電コネクタを利用した方法で起動してください。（45 ページ）
- ソケット位置および取り外しかたについては、車両の取扱説明書を確認してください。

下記の設定を実施すると、停電時に自動的に放電を行います。

- 「V2H スタンド設定」の「非常時放電動作」が「する」であること



- 「設定情報※」の「停電時出力」が「自動」であること



※：「設定情報」画面の詳細はパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

停電時に充放電コネクタを利用した起動方法 (例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

※ 車種によっては記載内容と異なる操作が必要となる場合があります。詳しくは車両の取扱説明書を参照してください。

(例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

停電時、太陽光発電電力が無い状態で、車両がコネクタロックしていないとき、またはコネクタロックしているが充放電時間帯以外のときは、V2H システムが停止します。

(蓄電池ユニットを併設している場合は、その後も蓄電池ユニットの電力で動作を維持しますが、残量が無くなると V2H システムが停止します)

V2H システムが停止すると、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」よりも残っている場合は、充放電コネクタを車両に接続し下記の操作を行って本システムを起動してください。

重要

車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回っている場合は、起動できません。その場合は太陽光が発電でき次第起動できます。ただし、太陽光発電電力によって V2H システムを起動した場合は、コネクタロックは解除されたままとなります。車両を動作させたい場合は、コネクタロックをしてください。(19 ページ)

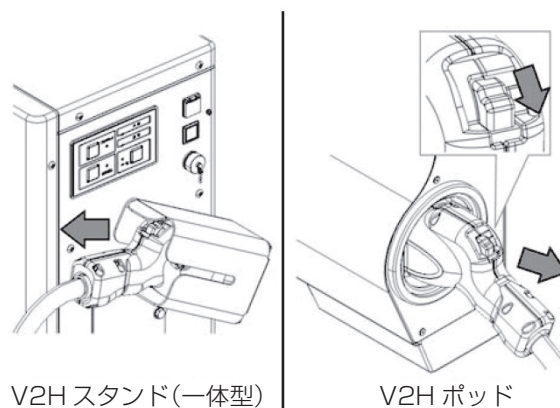
なお、下記の操作により起動させた場合でも、車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った場合は、V2H システムが停止します。

1 車両を準備する

V2H システムと接続するために以下①～④に従って、車両側の準備をしてください。

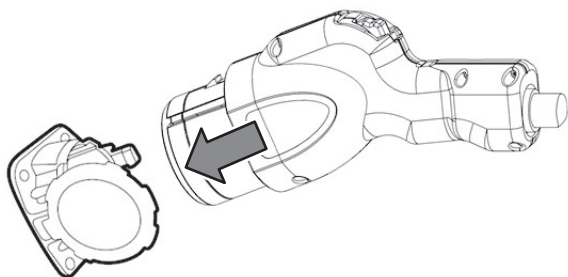
- ①車両のシフトレバーを P (パーキング) 位置にする。
- ②車両のメーターパネルを OFF の状態にする。
- ③パーキングブレーキをかける。
- ④車両の充電口を開く。

2 V2H システムから充放電コネクタを取り出す



V2H ポッドから取り出す場合は、解除レバーを下に押し、充放電コネクタを引き抜いてください。

3 充放電コネクタを車両に接続する



充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。
「カチッ！」と音がするまで押し込んでください。

メモ

充放電コネクタ接続中は、車両を移動しないでください。
車両の充電口や充放電コネクタが破損する可能性があります。

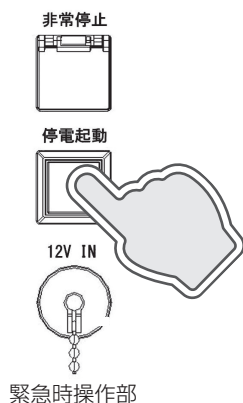
4 車両の ACC (アクセサリ) を ON にする

ON にした後、約 1 分間お待ちください。

メモ

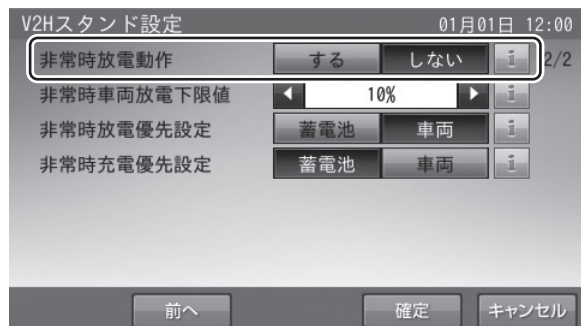
車種によっては専用のボタンでの操作となる場合があります。
詳しくは車両の取扱説明書を参照してください。

5 V2Hシステムの「停電起動」ボタンを押す



下記の実装を実施すると、停電時に自動的に放電を行います。

- 「V2H スタンド設定」の「非常時放電動作」が「する」であること



6 車両から放電状態を確認した段階で、車両の ACC（アクセサリ）を OFF にする

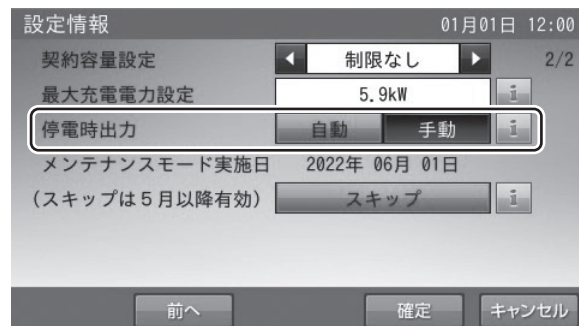
重要

車両の消費電力が多くなり、車両の蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両の ACC（アクセサリ）を必ず「OFF」にしてください。

メモ

- 本操作で起動できない車種は、車両の電源ソケットを利用した方法で起動してください。（43 ページ）
- 車両の ACC（アクセサリ）を ON にしても、すぐに放電が始まらない場合があります。その場合は ON にしてから約 1 分間経過したあとに、再度操作してください。
約 1 分間経過しても放電が始まらない場合は、車両の ACC（アクセサリ）が ON になっているか再度確認してください。

- 「設定情報^{*}」の「停電時出力」が「自動」であること



※：「設定情報」画面の詳細はパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

復電時の操作

- 停電後、復電した場合は、本システムに対して特別な操作はありません。
- 電力会社との協議で定められている時間内（最大 5 分）は、復電しても停電時の動作となります。復電後、電力会社との協議で定められた時間を経過すると、本システムは通常時のモードで動作します。

こんなときは

ブザー音や異音について

ブザー（ピピ音）が鳴ったとき

ブザー（ピピ音）が鳴ったときは、室内リモコンの画面に表示されたメッセージおよび「点検コード（BExxx、BFxxx、Blxxx）が表示されたとき」（58 ページ）の処置に従ってください。

機器から発生する音について

以下の音は本製品の異常ではありません。

ジージー音	
チリチリ音	製品内部の回路が動作するときに発生する音です。
チャリチャリ音	
カチャ音	製品内部の機械部分が動作するときに発生する音です。 (運転開始時と、停止時に発生します)
ブーン音	ファンの音です。
ガシャン音	機能分電盤の自動切替スイッチが切り替わるときに発生する音です。 (停電 / 復電時に発生します)

メモ

聴覚感度が高い方にとって、運転時の高周波音は不快に感じる場合がありますが異常ではありません。

動作がおかしいと感じたとき

ブレーカが頻繁に落ちる場合

お買い上げの販売会社へご連絡ください。

契約電力を変更する場合

契約容量を変更する場合は、お買い上げの販売会社へご連絡ください。

停電時に家電製品が使用できない場合

- ブレーカが落ちていないか確認してください。ブレーカが落ちている場合は、ブレーカを上げてください。
- 室内リモコンに点検コードが表示されている場合は、メッセージおよび「点検コード（BExxx、BFxxx、Blxxx）が表示されたとき」（58 ページ）の処置に従ってください。
- 「停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合」（49 ページ）を参照してください。太陽光発電が無く、車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下の場合および蓄電池ユニットの残量がゼロの場合は、本製品を利用することはできません。
- 上記要因でない場合、故障の可能性があります。お買い上げの販売会社へご連絡ください。

室内リモコンの画面が表示されない場合

停電時、太陽光発電がなく、蓄電池残量がゼロの場合は、室内リモコンの画面は表示されません。

「停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合」（49 ページ）の処置を行っても室内リモコンの画面が表示されない場合は、お買い上げの販売会社へご連絡ください。

放電時間が設定より短い場合

接続している車両の蓄電池容量が 10kWh 未満の場合、自動運転モードの放電時間は 1 日 10 時間までに制限されます。

(例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

夏季に充放電・発電動作が停止した場合

気温の上昇や日射により、パワーコンディショナ、V2H システムあるいは蓄電池ユニット（併設している場合）が高温になった場合に一時的に蓄電システムを停止する場合があります。機器の温度が下がると自動で充放電・発電動作を再開します。

車両が 100%まで充電できない場合

- 充電時間帯に他の家電製品（電気温水器、床暖房など）を多く使っている場合、電力契約によっては、充電できる電力が不足し、100%まで充電できない場合があります。その場合は、電力契約の見直しなどについて、お買い上げの販売会社にご相談ください。
- 充電時間が短い場合、100%まで充電できない場合があります。「V2H システムの充放電時刻を設定する」（31 ページ）を確認してください。
- 最大充電電力設定を低く設定している場合があります。車両への充電時に最大充電電力が自動的に制限され、充電時間帯に100%まで充電できない場合があります。最大充電電力設定値は、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「各種設定項目について」を確認してください。
- 車両充電上限値が設定されている場合は、設定されている値までしか充電できません。「V2H システムの詳細設定について」（37 ページ）の「車両充電上限値」を確認してください。
- 車両によっては車両ごとに定められた「充電可能上限値」により、充電上限値が強制的に制限されることがあります。詳しくは、ニチコンホームページを参照してください。
(https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html)
- 日頃グリーンモードによる太陽光発電の余剰電力充電をご利用になっている場合、天候によっては余剰電力が不足し、100%まで充電できない場合があります。

太陽光発電電力が充電できない場合

- 雨天・曇天時は十分な発電電力が確保できず、充電ができない場合があります。
- 車両の蓄電池残量が 100% だった場合、太陽光発電の余剰電力が発生しても充電を行わず売電します。V2H システムの充放電時間帯（31 ページ）もしくは「車両充電上限値」（37 ページ）の設定を確認し、余剰充電ができるよう電力会社の電力で充電する充電量を抑える設定にしてください。
- グリーンモードもしくは売電モード動作中に充放電時間帯以外の時間帯となった場合は、太陽光発電の余剰電力が発生しても充電を行わず売電します。

車両が充放電できない場合

- 車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下のときは放電ができません。
※室内リモコンで設定する「車両放電下限値」を下げることで放電できる場合があります。
- 車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「車両充電上限値」または車両ごとに定められた「充電可能上限値」以上のときは電力会社の電力による充電ができません。
※室内リモコンで設定する「車両充電上限値」を上げることで充電できる場合があります。
- コネクタロック状態になっていない場合は充放電できません。コネクタロックを行ってください。
- V2H システム緊急時操作部の「非常停止」ボタンが押され、V2H システムが非常停止している場合があります。お知らせリストに点検コード「BI730」が表示されていないか確認してください。表示されていた場合は、V2H システムに異常がないことを確認してから再度「非常停止」ボタンを押して、非常停止を解除してください。
- 自動運転モードの充放電時刻が適切に設定されていないと、意図した時刻に充放電ができない場合があります。
(車両の蓄電池容量が 10kWh 未満の車両を接続時は、放電時間が 1 日 10 時間までに制限されます。)
- 蓄電池ユニットを併設しているかつ、優先設定が「蓄電池」になっている場合、蓄電池ユニットを優先的に利用します。「V2H スタンド設定」画面の下記項目について、お客様のご利用状況に合わせて設定してください。
 - 「放電優先設定」
 - 「非常時放電優先設定」
 - 「非常時充電優先設定」
- 太陽光が売電中の場合、車両から放電することはできません。

蓄電池ユニットが充放電できない場合（蓄電池ユニット併設時）

- 蓄電池ユニットの充電上限値および放電下限値が設定されている場合は、設定されている値までしか充電および放電ができません。パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの充電上限値・放電下限値を設定する」を参照してください。
- 優先設定が「車両」になっている場合、車両を優先的に利用します。「V2H スタンド設定」画面の下記項目について、お客様のご利用状況に合わせて設定してください。
 - 「放電優先設定」
 - 「非常時放電優先設定」
 - 「非常時充電優先設定」
- 太陽光が売電中の場合、蓄電池ユニットから放電することはできません。

充放電の動作切り替え時に数秒時間がかかる場合

車両によっては、車両との接続の取り決めにより操作を行ってから動作するまでに数秒かかる場合があります。

定格で充電できない場合

- 車両の蓄電池残量（電圧）によっては、定格で充電できない場合があります。また、太陽光の余剰電力を充電しているときに定格充電できない場合は、売電を行います。
- 本製品に接続している家電製品の消費電力が多いと、定格で充電できない場合があります。
- 最大充電電力設定を低く設定している場合があります。車両への充電時に最大充電電力が自動的に制限され、充電時間帯に 100% まで充電できない場合があります。最大充電電力設定値は、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「各種設定項目について」を確認してください。

コネクタロック・解除を繰り返す場合

三菱自動車工業製 i-MiEV シリーズの場合、お使いいただいている家電製品の合計が約 200W 以下の状態が約 15 分経過すると、車両側で放電を停止することがあります。その場合は自動的に復帰を行います。電力の使用状況が変わらないときは、放電を停止します。

車両が満充電後、すぐに放電できない場合

車両によっては、満充電後すぐに放電できない場合があります。一度コネクタロックが解除することがありますが、自動的にコネクタロックを行い、放電できるようになります。

停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合

夜間など太陽光発電電力が無い状態で停電になり、車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った場合は、蓄電システムが停止します。その場合は、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

また、太陽光発電電力が得られた場合と得られない場合および蓄電池ユニットを併設している場合とで対応が異なりますので、状況に応じて以下を参照してください。

● 太陽光発電電力が得られた場合

充電を優先する場合は、「V2H システムの停電時運転モードを選ぶ（停電時）」（42 ページ）の停電時運転モードを「車両充電」にしてください。



「車両充電」を設定することで車両の蓄電池に早く電気を貯めることができます。ただし、車両充電で動作中は家電製品へ一切給電されませんので、家電製品への給電を優先したい場合は、「自動給電切替設定」を設定してください。

● 太陽光発電電力が得られない場合

復電するまで、本製品を利用することはできません。復電後は車両の蓄電池残量が 12% 程度になるまで強制的に充電を行い、その後は充電時間帯に自動で充電を行います。

● 蓄電池ユニットを併設している場合

蓄電池ユニットの残量が残っていた場合、蓄電池ユニットから電力を供給します。なお、太陽光発電電力が得られない状態で残量がゼロになった場合は、復電するまで本製品を利用することはできません。

停電時に充放電できない場合

- 車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下の場合、放電ができません。
※室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」を下げることで放電できる場合があります。
- 「非常時放電動作」が「しない」になっている場合、停電時に車両からの放電はできません。「する」に設定してください。（38 ページ）
- 停電時運転モードが「車両充電」になっている場合、車両から放電することはできません。「自動給電切替設定」に設定してください。（42 ページ）

充放電コネクタが取り出せなくなった場合

- コネクタロックが解除されていないと、充放電コネクタは取り出せません。V2H システムもしくは室内リモコンのどちらかで、コネクタロックの解除を行ってください。（22 ページ）
- 一度運転モードを設定してください。設定することで取り外せる場合があります。
 - ① V2H システムにて、「自動運転」または「充電」ボタンを押してください。
 - ② V2H システムにて、「コネクタロック」ボタンを押してください。
- 症状が変わらない場合は、「充放電コネクタを緊急離脱する場合」（51 ページ）を参照してください。

充放電コネクタを落としてしまった場合

充放電コネクタのロック / アンロック表示が「青」になり、ロックがかかった状態になる場合があります。

その場合は、車両に接続してコネクタロックの操作を行ってから再度コネクタロック解除操作を行うと、充放電コネクタのロック / アンロック表示が「白」になり、コネクタロックが解除されます。

※ ロックがかかった状態のまま、V2Hシステムの充放電コネクタホルダーに収納した場合は、取り出すときに引っ掛かる感触がありますが、そのまま強く引っ張って取り出してください。取り出した後は、上記の操作を行ってください。

充放電コネクタが濡れてしまった場合

布などで水分を拭き取ってください。そのままにしておくと、感電の原因となります。

充放電コネクタが凍結してしまった場合

冬季中、充放電コネクタが凍結し抜けなくなることがあります。その場合は無理に抜こうとせずに V2H システムの動作を停止し、ぬるま湯をかける、もしくはドライヤーの風をあてて解凍してください。付着した水分は乾いた布で拭き取ってください。

充放電コネクタを緊急離脱する場合

緊急離脱について

緊急の場合は、付属の「充放電コネクタ緊急離脱工具」を使用して充放電コネクタを取り外すことができます。

- 緊急離脱を行った場合は、充放電コネクタは利用できなくなるため、必ずお買い上げの販売会社にご連絡ください。
- 保証期間中であっても、不具合以外の要因で緊急離脱を行った場合のサービス対応費用はお客様ご負担となります。

重要

充放電コネクタ緊急離脱工具の入った袋に取扱説明書が同封されています。

“開封前に必ずお読みください”として下記を明示しています。開封された場合は下記内容に同意されたものとみなします。

- 緊急離脱を行った充放電コネクタは使用できなくなります。
- 緊急離脱を行った場合は弊社による点検と内部スイッチ機能の回復が必要となります。
- 本書の「安全のために必ずお守りください」を作業前に必ずお読みください。
- 本書の記載内容を熟読し、手順に従って作業を行ってください。

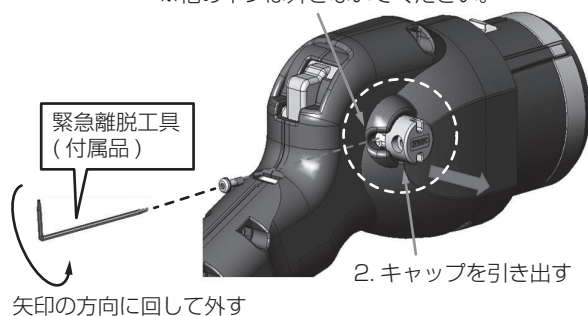
緊急離脱の手順

作業前に以下を確認してください。

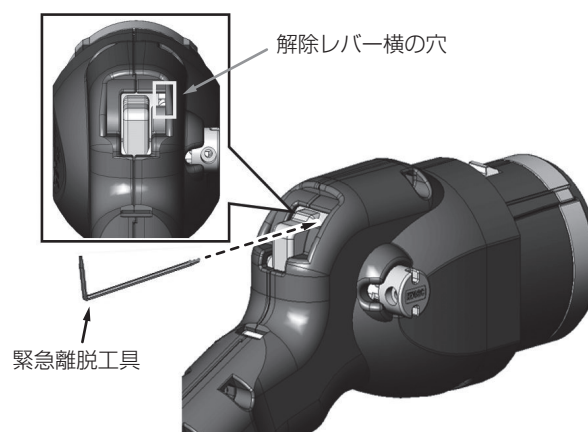
- 充放電が停止していること
- V2H システムのランプがすべて消灯していること
- 12V 電源ケーブルが接続されていないこと

1. 緊急離脱工具を使用してキャップのネジを外してください。（1カ所のみ。他のネジは外さないでください。）
2. 充放電コネクタからキャップを右に引き出して下さい。（内部でカチャッと音がします。）

1. ネジを1カ所外す
※他のネジは外さないでください。

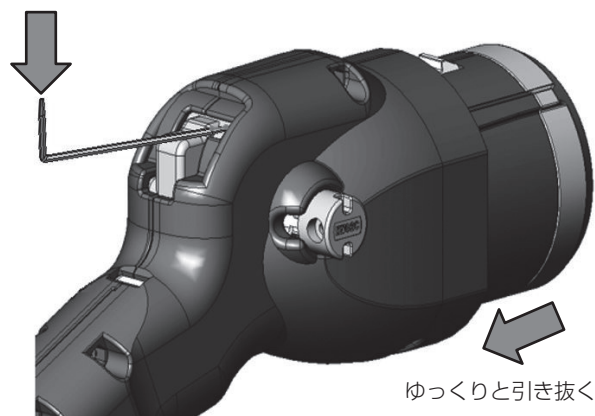


3. 緊急離脱工具を、解除レバー横の穴の突き当たりまで挿し込んでください。
 - 穴の下面に沿うように挿し込んでください。
 - 突き当たりまで差し込まないと取り外しできない場合があります。



4. 緊急離脱工具を下方向に下げながら、充放電コネクタを車両充電口からゆっくり引き抜いてください。

緊急離脱工具を突き当たりまで差し込み、下に下げる



※ 緊急離脱工具を使用した場合は、充放電コネクタは利用できなくなります。取り外し完了後は必ずお買い上げの販売会社にご連絡ください。

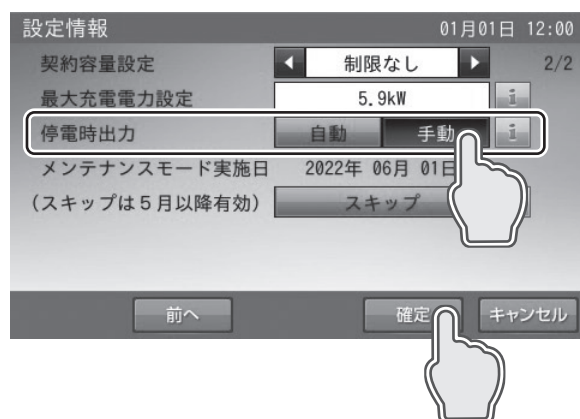
停電時、安全を確認してから家電製品をご利用になりたい場合

下記に従って、操作を行ってください。

●事前設定

1 「停電時出力」 および 「非常時放電動作」 を設定する

「停電時出力」 設定



「設定情報」画面の「停電時出力」を「手動」に設定してください。

設定手順は、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

「非常時放電動作」 設定



「V2H スタンド設定」画面の「非常時放電動作」を「する」に設定してください。

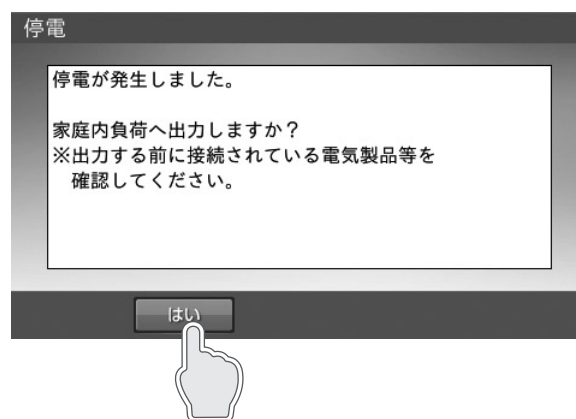
設定手順は、「V2H システムの詳細設定について」(37 ページ)を参照してください。

●停電発生時の操作

1 安全を確認する

停電が発生したら、配線、コンセントと接続している家電製品などが安全であることを確認します。

2 「はい」 をタッチする

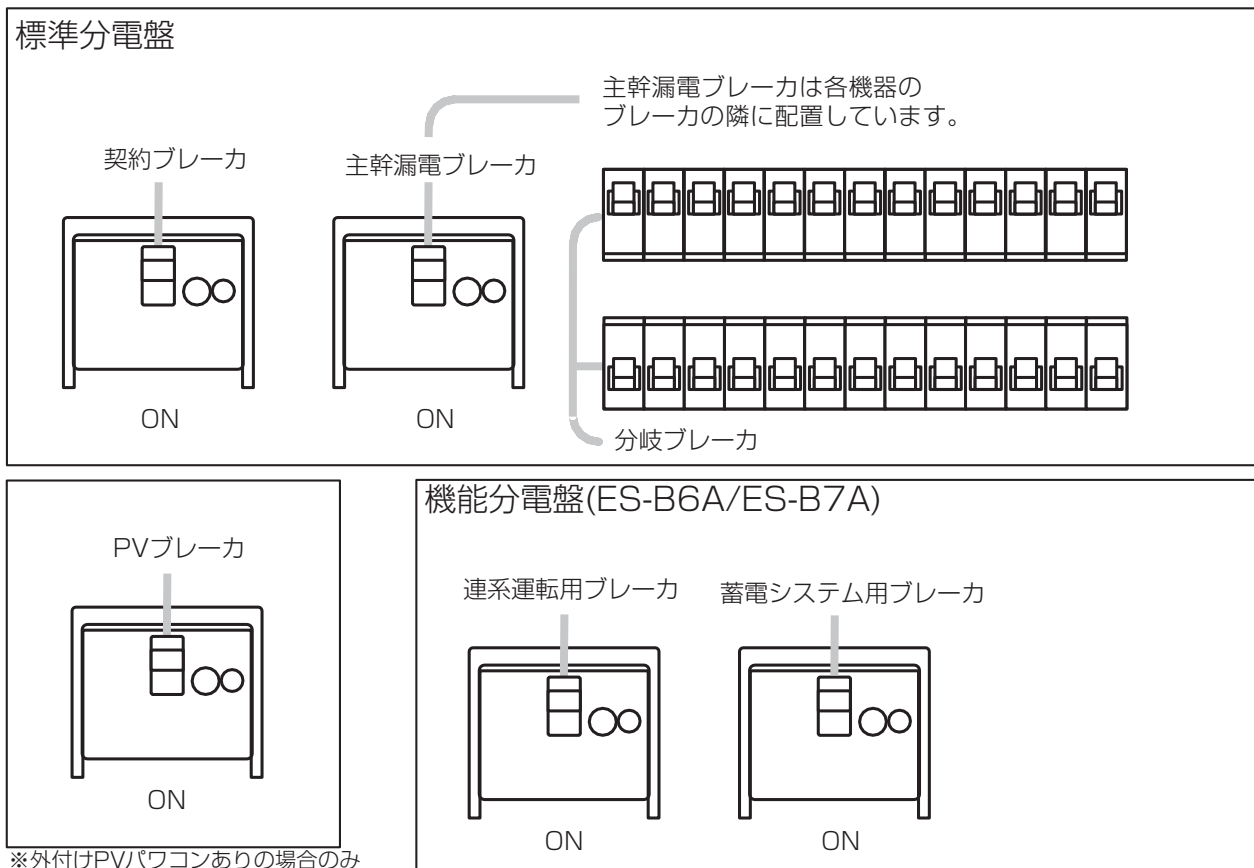


直前の画面に戻り、家電製品に電気が供給されます。

長期不在の場合 (2 週間以上)

長期不在となる場合は、室内リモコンは「ON」のまま、運転モードを「グリーンモード」もしくは「売電モード」に設定し、「契約ブレーカ」、「主幹漏電ブレーカ」、「連系運転用ブレーカ」、「蓄電システム用ブレーカ」は「ON」の状態を維持してください。

分電盤、ブレーカの配置例



※外付けPVパワコンありの場合のみ

メモ

家電製品に電気を供給したくない場合は、標準分電盤内の個々の分岐ブレーカを「OFF」に切り替えてください。

重要

- 故障時以外は、契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、連系運転用ブレーカおよび蓄電システム用ブレーカを「OFF」にしないでください。
- 蓄電池ユニットを併設している場合は、契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、連系運転用ブレーカ、蓄電システム用ブレーカが「OFF」の状態、2 週間を超えて放置されると、蓄電池が過放電の状態で使用できなくなり、電池交換（有償）となることがあります。
(電力契約の変更・解除などにより、電気が供給されない状態が続く場合も同様となります)
- 蓄電池ユニットを併設している場合は、蓄電システムを「運転停止」または室内リモコンの電源を「OFF」の状態、2 週間以上放置しないでください。蓄電池が過放電の状態で使用できなくなり、電池交換（有償）となることがあります。

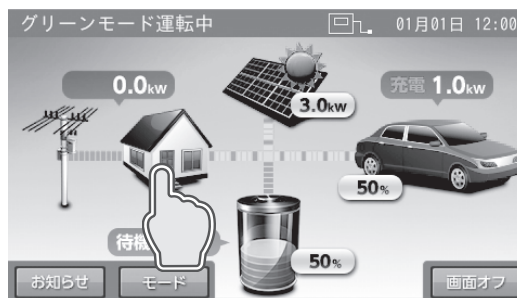
V2H システムを停止させる場合

風水害により水没のおそれがある場合等、V2H システムを停止させる場合は、下記手順に従って V2H システムを停止させてください。

1 運転停止前確認

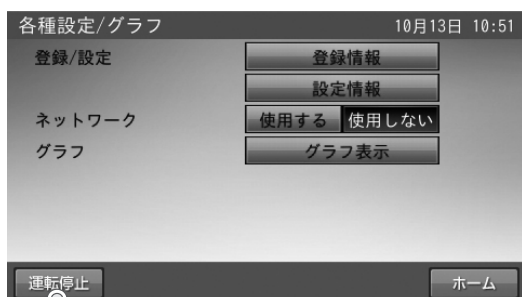
家電製品の電源を「OFF」にしてから V2H システムを停止させてください。

2 「家アイコン」をタッチする



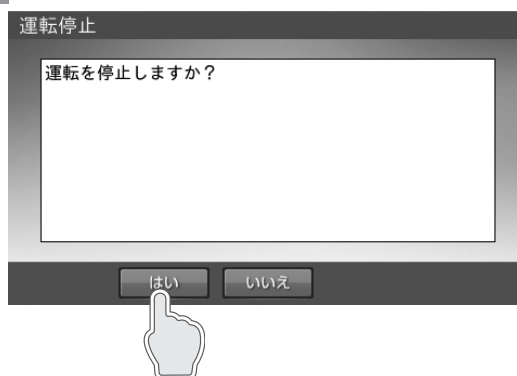
「各種設定 / グラフ」画面に切り替わります。

3 「運転停止」をタッチする



運転を停止します。

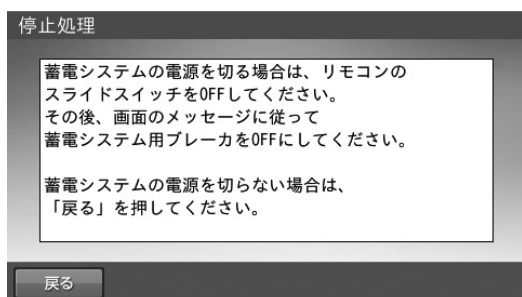
4 運転停止を確定した後「はい」をタッチする



メモ

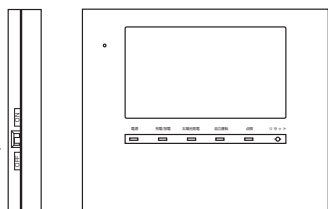
「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。

5 室内リモコンを OFF にする



電源スイッチ
(スライドスイッチ)

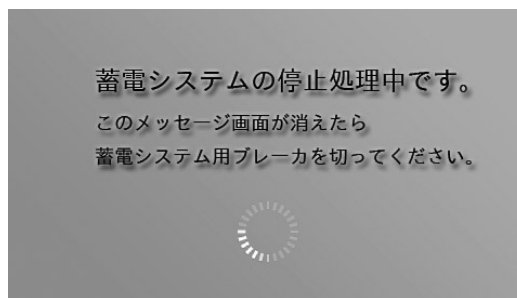
OFF



メモ

V2H システムを停止しない場合は、「戻る」をタッチしてください。「各種設定 / グラフ」画面に戻ります。「運転開始」をタッチして、必ず運転状態にしてください。

6 蓄電システム用ブレーカを OFF にする



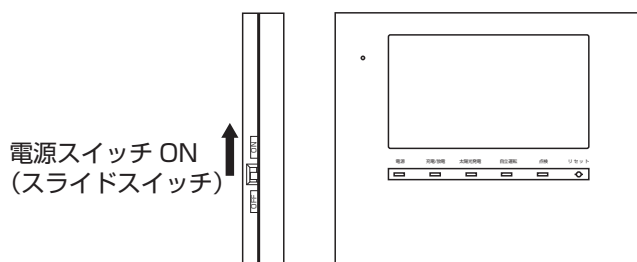
「蓄電システム用ブレーカ」を「OFF」にしてください。「蓄電システム用ブレーカ」の位置は、54 ページを参照してください。

重要

V2H システムを運転停止の状態、2 週間以上放置しないでください。蓄電池ユニットを併設している場合は、蓄電池が過放電の状態となり、電池交換（有償）となることがあります。V2H システムを運転停止した際は、速やかに V2H システムを起動させ、運転状態にしてください。(56 ページ)

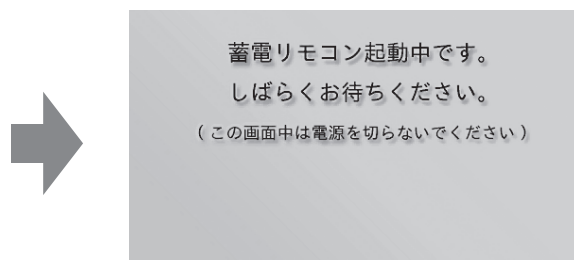
V2H システムを起動させる場合

1 蓄電システム用ブレーカ・室内リモコンを ON にする



「蓄電システム用ブレーカ」および「室内リモコン」を「ON」にしてください。

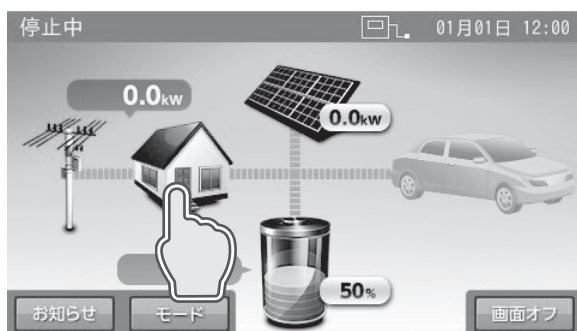
「蓄電システム用ブレーカ」の位置は 54 ページ参照。



メモ

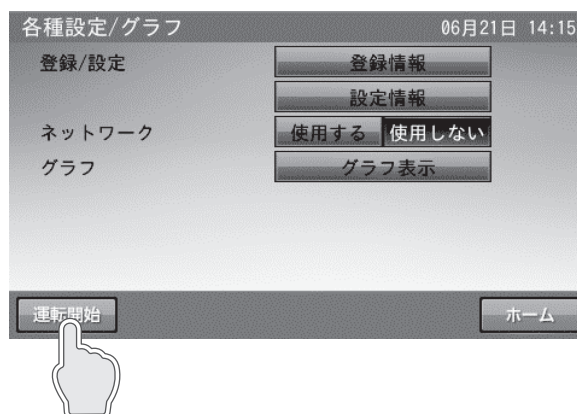
- 上記の画面表示中は、室内リモコンの電源を「OFF」にしないでください。
- 日時設定の数字キーが表示されたときは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「日時の設定」に従い、現在日時を設定してください。

2 「家アイコン」をタッチする

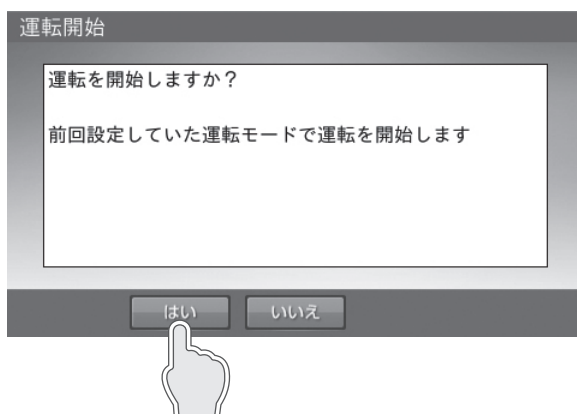


「各種設定 / グラフ」画面に切り替わります。

3 「運転開始」をタッチする



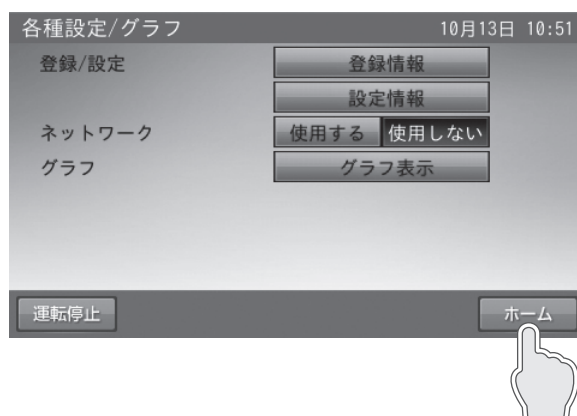
4 運転開始を確定した後「はい」をタッチする



メモ

- 「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。
- V2H システムを起動した後は、直前に設定していた自動運転モードに切り替わります。

5 「ホーム」をタッチする



「ホーム」画面に戻ります。

メモ

充放電コネクタを車両に接続した状態で V2H システムを起動しても、コネクタロックは解除されたままとなります。車両を動作させたい場合は、コネクタロックをしてください。(19 ページ)

V2H システムを廃棄する場合

使用后、すみやかに廃棄してください。廃棄する場合は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。
廃棄費用はお客様負担となります。

風水害または地震などの対応

- 風水害により水没のおそれがあるときは、あらかじめ本システムの運転を停止させて、蓄電システム用ブレーカを「OFF」にしてください。（55 ページ）
- 水没した場合は、本システムを停止させた状態で、お買い上げの販売会社までご連絡ください。
- 地震により点検コードを発報している等の異常が発生した場合は、お買い上げの販売会社までご連絡ください。

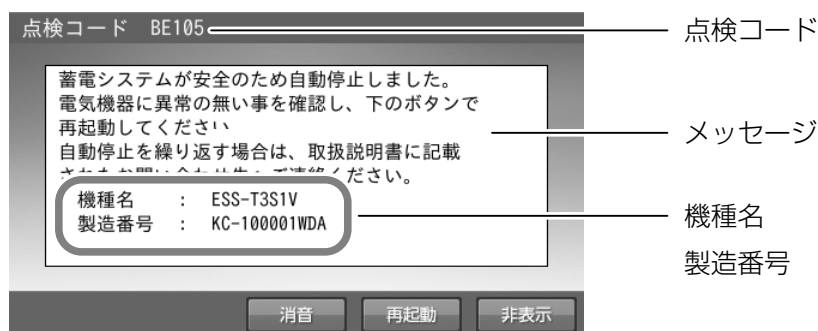
点検コード（BExxx、BFxxx、Blxxx）が表示されたとき

蓄電システムが何らかの原因で一時的に停止したとき、または停止中の状態のときに、点検コード「BExxx」、「BFxxx」、「Blxxx」（xxx には 3 桁の数字が入ります）が表示されます。

点検コードが表示されたときは、下表に従って処置してください。お買い上げの販売会社または弊社専用ダイヤルにご連絡いただく際は、画面に表示される機種名、製造番号、点検コードを合わせてご連絡ください。

なお「BExxx」の場合、コネクタロックが解除されるため、「再起動」ボタンで復帰させたときはコネクタロックを再度行ってください。

■例：点検コードの画面



- [消音] をタッチすると、ブザー音が止まります。
- [再起動] をタッチすると、蓄電システムを再起動します。
- [非表示] をタッチすると、30 秒間点検コードを非表示にします。

重要

点検コードが表示された状態で放置しないでください。蓄電池ユニットを併設している場合は、蓄電池が過放電の状態となり、電池交換（有償）となることがあります。

点検コードのメッセージと処置

点検コード	メッセージ	処置
充放電時刻重複	充放電時刻が重複または開始時刻と停止時刻が重複しているため設定できません。	時間帯の重複がないように再設定してください。(31 ページ)
BExxx	蓄電システムが安全のため自動停止しました。 電気機器に異常の無い事を確認し、下のボタンで再起動してください。 自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
BE201 BE202 BE203	自立出力電力オーバー 接続機器の消費電力が出力をオーバーしたため、給電を停止しました。 ご家庭の家電品の電源をいくつか切って、下のボタンで再起動してください。 掃除機、電子レンジ、ドライヤー等、消費電力の大きな機器の使用は避けてください。	停電時に本製品からの給電で電力が賅えきれなくなると表示されます。 掃除機、電子レンジ、ドライヤー、ヒーター等、消費電力の大きい機器のご使用はお控えください。
BFxxx	蓄電システムが自動停止しました。 安全確認後、自動的に復帰します。 自動停止を繰り返す場合は取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
BF508 BF771	パワーコンディショナまたは V2H スタンドの温度が上昇しています。パワーコンディショナまたは V2H スタンドの周囲に放熱を妨げるものがある場合は、取り除いてください。自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	パワーコンディショナまたは V2H システムの温度が上昇すると表示されます。 周囲に放熱を妨げるものがある場合は取り除いてください。

点検コード	メッセージ	処置
BI787	放電未対応車が接続されています。この車種では放電できません。充電は可能です。充電をご利用の場合は、再度コネクタロックを行ってください。	放電未対応車両が接続されると表示されます。 放電未対応の車両は放電できません。 充電のみ利用する場合は「V2H スタンド設定」の「車両放電有無」を「しない」に設定してください。(37ページ)
BI788	蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。シフトレバーがパーキングになっていない可能性があります。シフトレバーをパーキングに操作して、再度コネクタロックを行ってください。	車両のシフトレバー位置がパーキングでないと表示されます。 シフトレバーをパーキングにしてください。
BI789 BI794	未対応車が接続されました。この車種は接続できません。充放電コネクタを車両から抜いてください。	接続未対応の車両を接続しないでください。 なお、接続可能車両*であっても車種によっては稀に発報する場合があります。その場合は故障ではありませんので、再度コネクタロックを行ってください。
BI795 BI796	車両側で異常を検出したため自動停止しました。車両に異常のない事を確認し、再度コネクタロックを行ってください。	車両側で異常を検出すると表示されます。(本製品の異常ではありません) 充放電コネクタを正しく接続しているにも関わらず発報を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BI798	車両側で異常を検出したため自動停止しました。車両に異常のない事を確認し、再度コネクタロックを行ってください。	車両との接続で異常を検出すると表示されます。 表示された場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BI777 BI797	充放電電力が低い状態が続いたか、EV-IT が利用されたため、自動停止しました。充放電電力が低い状態が続くと、車両によっては停止処理が行われます。また、V2H 接続時には EV-IT が利用できません。	充放電電力の低い状態が続いた場合、もしくは EV-IT を利用する場合に表示されます。 車両や機器の故障ではありませんが、自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BI736 BI710	充放電コネクタが奥まで正しく接続されていません。異物等ないことを確認して、奥まで接続してから再度コネクタロックを行ってください。	充放電コネクタが正しく接続されていない場合に表示されます。 充放電コネクタを再度接続し直してください。正しく接続しても表示する場合には、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BI730	V2H スタンドの非常停止ボタンが押されました。安全を確認の上、再度非常停止ボタンを押して解除してください。	V2H システムの非常停止ボタンが押された場合に表示されます。 再度非常停止ボタンを押して点検コードを解除してください。 点検コード解除後はコネクタロックが解除された状態となりますので、車両の充放電を開始する場合は、コネクタロックをしてください。

※ V2H システムの対応車種については、ニチコンホームページを参照してください。

https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

蓄電池のメンテナンスモードについて

メンテナンスモードとは、蓄電池を自動的に点検するモードです。

(蓄電池ユニットを併設している場合に実施されます。)

自動運転モードの動作時間帯に関係なく、メンテナンスモード実施日の午前 1 時から開始し、最初に蓄電池ユニットを残量 100% まで充電し、その後蓄電池ユニットの放電を行います。放電後、メンテナンスモードは完了し、メンテナンスモード開始前の運転モードに戻ります。

詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池のメンテナンスモードについて」を参照してください。

重要

- メンテナンスモード実施中に車両の充電を行いたい場合は、運転モードを「車両充電」または「拡張充電」に設定してください。
なお、運転モードを「車両充電」または「拡張充電」に変更すると、メンテナンスモードは中止されます。
- メンテナンスモード実施中は、運転モードを「エレムーブ充電」に設定することはできません。
- メンテナンスモード実施中に運転モードを「売電モード」、「グリーンモード」または「EV モード」に設定すると、メンテナンスモードは中止ならず、メンテナンスモード完了後に設定されたモードで動作します。
- 車両の充放電動作中にメンテナンスモードが開始された場合は、車両の動作を中止します。その後メンテナンスモードの放電動作開始時に車両が充電可能な状態であれば、蓄電池から放電した電力を車両へ充電します。
なお、車両が満充電などで充電不可能な状態になった場合は、蓄電池からの放電電力はご家庭内へ供給されます。
- メンテナンスモード実施中に蓄電池残量が 10% を下回った車両が接続された場合は、接続された時点で 12% 程度まで強制的に充電を行い、その後メンテナンスモードが再開されます。

車両に接続する際の注意点

- 対応車種の中でも車両側のプログラムを変更する必要がある車両があります。車両のプログラムの変更に関しては、車両販売店へお問い合わせください。
- 放電に対応していない車種は、本製品の放電機能を使用できません。
- V2H システムの対応車種については、ニチコンホームページを参照してください。
https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html
- 大雨の中（暴風雨や雷が予測されるなか）では使用しないでください。
ただし、雨や雪の中でも、下記にご注意いただければ使用可能です。
 - ・感電や漏電を防止するため、濡れた手で充放電コネクタに触れたり、抜き差しをしないでください。
 - ・万が一、コネクタが濡れてしまったり、雪が付着している場合は、布などで水分、雪を拭きとってください。

日産自動車株式会社の車両（EV）に接続する際の注意点

日産自動車株式会社の車両と V2H システムの充放電コネクタを接続した状態で「EV - IT」機能は使用しないでください。車両および本製品の機能が正常に動作しません。誤って使用してしまい、正常に動作しなくなった場合は、下記の操作を行ってください。

- 車両のリセット
 - (1) 充放電コネクタを車両から外します。
 - (2) 車両のブレーキペダルを踏み、パワースイッチを ON にします。
 - (3) 車両のタイマー機能（タイマー充電、タイマーエアコン）が設定されている場合は、設定を解除します。
 - (4) 車両のパワースイッチを OFF にします。
- 点検コード発報時の対処
上記車両のリセットを行っても、室内リモコンに点検コードが表示されたままの場合は、室内リモコンに表示しているメッセージに従い、「再起動」ボタンをタッチしてください。

三菱自動車株式会社の車両（EV）に接続する際の注意点

- 三菱自動車工業株式会社の車両のタイマー充電とプレ空調機能は、利用できません。
- コネクタロック状態で充放電状態を行っていない、または充放電電力が 200W 以下の状態が 15 分以上続くと、充放電を停止し、コネクタロックを解除します。自動的に復帰しますが、電力の使用状況が変わらない場合、放電を停止します。契約電力と比較して、家庭内消費電力が大きいために、充電電力が確保できない場合は、契約電力を見直すか、ご家庭の使用電力を小さくするよう調整してください。
- 三菱自動車工業株式会社の車両は、2 週間に 1 回程度は普通充電で満充電にしてください。

トヨタ自動車株式会社の車両（FCV）に接続する際の注意点

- トヨタ自動車株式会社の燃料電池自動車「MIRAI」では、車両への充電機能をご使用いただくことはできません。

トヨタ自動車株式会社の車両（PHV）に接続する際の注意点

- 接続している車両の蓄電池容量が 10kWh 未満の場合、自動運転モードの放電時間は 1 日 10 時間までに制限されます。詳しくは「EV 放電制限設定を設定する」（33 ページ）を参照してください。

本田技研工業株式会社の車両（FUEL CELL）に接続する際の注意点

- 本田技研工業株式会社の「CLARITY FUEL CELL」では、車両への充電機能をご使用いただくことはできません。

保証とアフターサービス

保証について

保証については、保証書の内容をよくお読みください。

弊社または販売会社からお渡ししますので、必ず販売会社名、引渡日等の記入をお確かめになり大切に保管してください。

注：上記の記載がない場合には無効となることがあります。

アフターサービスについて

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。また、機器や設置した建物の所有者の変更による機器の取り扱いについては、事前に販売会社にお問い合わせください。

販売元専用ダイヤルがご利用いただけない場合は、下記のニチコンサービスセンターまたはお客様窓口にご連絡ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される場合は、次のことをお知らせください。

- お買い上げ時期
- 装置の型番と製造番号（装置側面の定格ラベルに表示）
- 故障の状況（点検コード、故障発生時の時間と天候など）

補修用性能部品の最低保有期間

- 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 装置の補修用性能部品の最低保有期間は販売終了後、保証書記載の保証期間相当年数となります。

移設などで機器を一時保管される場合は屋内（湿気の少ないところ）に保管してください

お客様ご自身では移設を行わないでください。

故障した場合の連絡先	ニチコン株式会社サービスセンター 電話：03-5212-9211 ファックス：03-5211-2153 平日：9時～20時 土・日・祝日・休業日：9時～18時
製品の使用方法などに関するお問い合わせ先	ニチコン株式会社お客様窓口 電話：0120-215-086 メール：info-ess@nichicon.com 平日：9時～17時 土・日・祝日・休業日は除く

補助金に関するご注意

購入時に補助金の交付を受けた方

設置時から一定期間の使用が義務付けられています

補助金の支給を受けて本製品を購入した場合は、設置時から一定期間本製品を適正にご使用していただく必要があります。設置時から期間内に修理が必要になった場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。

遠隔出力制御ルールに関するご注意

本製品は、2015年1月22日公布の再生可能エネルギー特別措置法施行規制の一部を改正する省令と関連告示に対応する機器です

再生可能エネルギーを最大限導入するために、電力会社の求めがあった場合は、遠隔出力制御を行う機器の設置が義務づけられました。

省令改正に関して詳しくは、経済産業省のホームページをご参照ください。(https://www.meti.go.jp/)

なお、遠隔出力制御は地域により対応が異なります。また、遠隔出力制御は電力会社の要請により実施されますので、詳しくは、各電力会社にお問い合わせください。

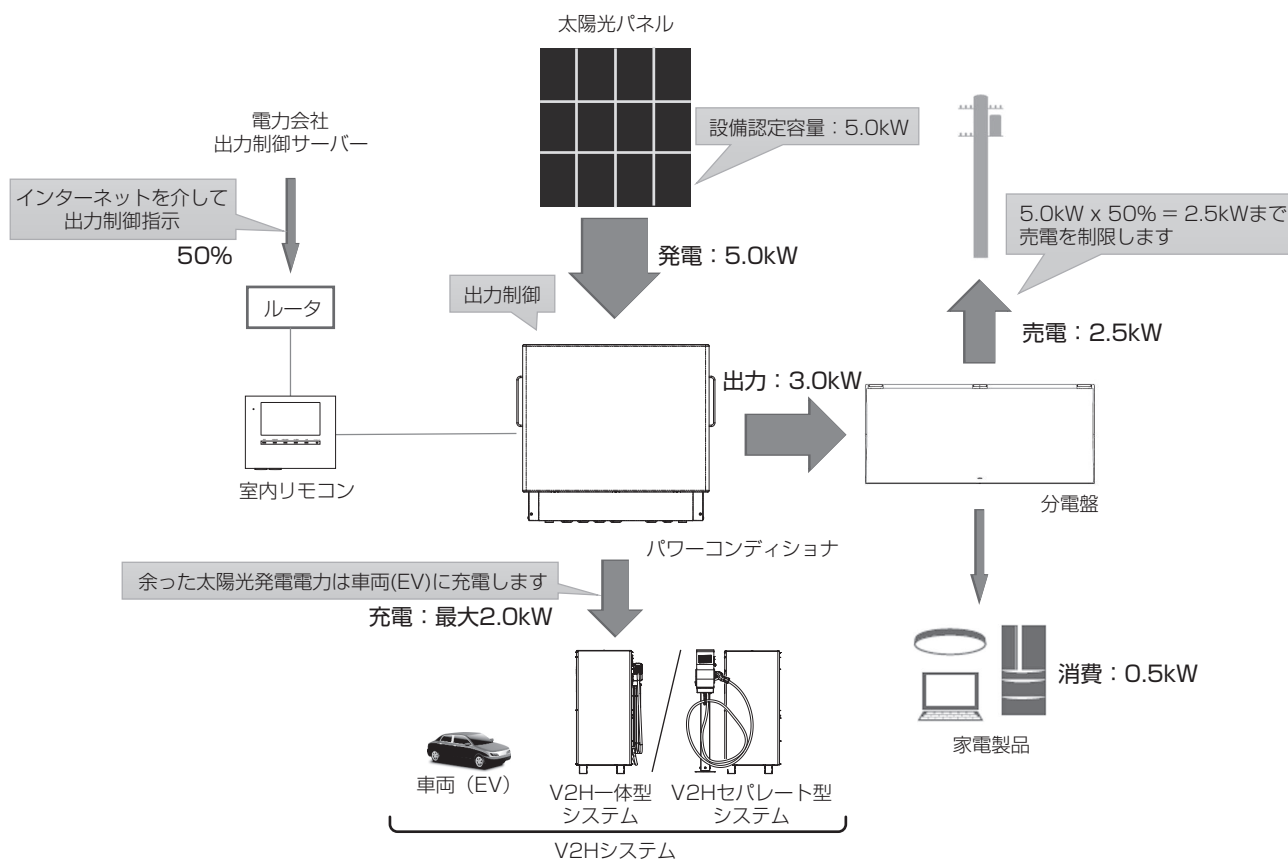
本製品は、電力会社の遠隔出力制御を有効にするために、インターネットへの接続が必要です

インターネットへの接続はお客様のネットワーク環境を利用します。インターネット回線契約・利用に伴う費用はお客様のご負担となります。なお、インターネットへ接続されない場合は、有償での訪問対応作業が必要となりますのでご注意ください。また、今後正式発表される遠隔出力制御の仕様によっては、機器のソフトウェア更新の他に、有償での対応作業が必要となる場合があります。

詳しくは、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。また、インターネットの接続方法については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「ネットワークの設定」を参照してください。

例：出力制御指示が50%の場合

本製品の設備認定容量の50%まで、太陽光発電電力の売電が制限されます。本製品の設備認定容量については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「太陽光発電設定を確認する」を参照してください。



※ 太陽光発電の電圧上昇抑制や遠隔出力制御について

システムの様々な状況による電圧上昇抑制や、電力会社による出力制御要請により、太陽光発電の余剰電力の一部を売電できない場合があります。売電できない余剰電力は、お客様が設定した充放電時間内であれば車両へ充電を行いますが、以下の場合は車両へ充電しません。

- ・コネクタロックが解除されている場合
- ・V2Hシステムの「車両放電有無」が「しない」に設定されている場合 (37 ページ)
- ・車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回っている場合 (27 ページ)
- ・特定車種の車両放電時間帯制限の時間から逸脱した場合 (33 ページ)

なお、蓄電池ユニットを併設している場合は、余剰電力は蓄電池ユニットに充電され、蓄電池ユニットが満充電になり次第、車両への充電に切り替わります。

本製品の機能比較一覧

本製品は、V2H システム（車両）および蓄電池ユニットの有無により設定できる項目や動作仕様が異なります。

対象画面	設定項目	蓄電池ユニット併設有無による動作違い	設定項目有無 (○：設定可能、×：設定不可)	
			V2H システム のみ	V2H システム + 蓄電池ユニット
運転モード設定	売電モード	● 蓄電池ユニットを併設している場合 ・ 充電時間帯は車両が常に優先で充電され、車両が満充電になり次第、蓄電池ユニットの充電を行います。 ・ 放電時間帯は車両もしくは蓄電池ユニットから、優先度設定に従い、順番に放電を行います。 ● 蓄電池ユニットを併設していない場合 充電時間帯および放電時間帯に従い、車両の充放電動作を行います。	○	○
	グリーンモード	● 蓄電池ユニットを併設している場合 太陽光の余剰電力は車両が常に優先で充電され、車両が満充電になり次第蓄電池ユニットへ充電を行います。 ● 蓄電池ユニットを併設していない場合 太陽光の余剰電力充電により車両が満充電になり次第、余剰電力は売電します。	○	○
	EV モード	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定できません。	×	○
	蓄電池充電	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定できません。	×	○
	車両充電	蓄電池ユニットを併設している場合は、車両を充電している間、蓄電池ユニットは待機状態となります。	○	○
	拡張充電	蓄電池ユニットを併設していない場合は、蓄電池ユニットの電力を拡張充電に使用できません。	○	○
	エレムーブ充電	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定できません。	×	○
	自動給電切替設定 (停電時のみ)	● 蓄電池ユニットを併設している場合 ・ 太陽光発電動作と車両もしくは蓄電池ユニットの充放電動作を行います。 ・ 車両もしくは蓄電池ユニットの充放電動作は、停電時の優先設定に従い動作します。 ● 蓄電池ユニットを併設していない場合 太陽光発電動作と車両の充放電動作を行います。	○	○
	エレムーブ放電 (停電時のみ)	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定できません。	×	○
メンテナンスモード		蓄電池ユニットを併設していない場合は、行いません。	×	○

対象画面	設定項目	蓄電池ユニット併設有無による動作違い	設定項目有無 (○：設定可能、×：設定不可)	
			V2H システム のみ	V2H システム ＋ 蓄電池ユニット
V2H スタンド 設定	車両充電上限値	蓄電池ユニットを併設している場合は、自動運転モードの充電動作中に車両が上限値により充電を終了すると、充電時間帯中であれば蓄電池ユニットの充電を行います。	○	○
	車両放電下限値	蓄電池ユニットを併設している場合は、自動運転モードの放電動作中に車両が下限値により放電を終了すると、放電時間帯中かつ蓄電池ユニットが放電可能であれば、蓄電池ユニットから放電を行います。	○	○
	車両放電有無	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定を「しない」にすると、太陽光が発電するまで本製品から一切放電を行いません。	○	○
	放電優先設定	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定できません。	×	○
	V2H 本体操作	蓄電池ユニットの併設有無による動作の違いはありません。	○	○
	非常時放電動作	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定を「しない」にすると、太陽光が発電するまで本製品は停止します。	○	○
	非常時車両放電 下限値	蓄電池ユニットを併設している場合は、放電動作中に車両が下限値により放電を終了すると、蓄電池ユニットが放電可能であれば、蓄電池ユニットから放電を行います。	○	○
	非常時放電優先 設定	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定できません。	×	○
	非常時充電優先 設定	蓄電池ユニットを併設していない場合は、設定できません。	×	○

仕様

V2H システム

型番※ 1		ES-T3V*	ES-T3P*	ES-T3PL*
外形寸法	V2H スタンド	W520 × H1180 × D260mm (突起部 / 充放電コネクタ含まず)	W520 × H1180 × D260mm (突起部含まず)	
	V2H ポッド	—	W170 × H430 × D173mm (突起部含まず)	
本体質量	V2H スタンド	69kg	61kg	
	V2H ポッド	—	6.8kg	8.7kg
充放電コネクタケーブル長		7.5m	3.5m	7.5m
充電部 (系統連系時)	電気方式	単相 2 線式 (接続は単相 3 線式)		
	定格電圧	AC202V ± 12V		
	定格周波数	50 または 60Hz		
	出力電力	6kW 未満 ※ 2 (拡張充電時 : 最大 9.9kW ※ 3)		
放電部 (系統連系時)	電気方式	単相 2 線式 (接続は単相 3 線式)		
	定格電圧	AC202V ± 12V		
	定格周波数	50 または 60Hz		
	AC 出力電力	5.9kW ※ 4		
放電部 (自立時)	電気方式	単相 3 線式		
	定格電圧	AC202V ± 12V		
	定格周波数	50 または 60Hz		
	AC 出力電力	5.9kVA (片相 : 3.0kVA) ※ 4		
車両側電圧範囲		DC150V ~ 450V		
冷却方式		強制空冷方式 (V2H スタンドのみ) ※ 5		
不要輻射		VCCI class B 準拠 ※ 6		
運転時騒音		40dB-A 以下 ※ 7		
防水防塵保護等級		IP36, IP46 (水抜き穴、吸排気口を除く場合)		
設置環境	設置条件	屋外、標高 2,000m 以下、重塩害非対応 (-30 ~ +45℃)		
	動作温度	-20 ~ +40℃		

※ 1 : V2H システムはシリーズ品です。型番の "*" には、英数字が複数桁入ることがあります。

※ 2 : 機器の入力値のため、実際の充電出力とは異なる場合があります。車両の状態 (車種、充電率)、契約電力等により異なる場合があります。

※ 3 : 車両の状態 (車種、充電率)、蓄電池ユニットの有無、太陽光の発電電力等によって異なる場合があります。

※ 4 : 車両の状態 (車種、充電率) によって異なる場合があります。

※ 5 : 動作中は V2H スタンド内蔵ファンの動作音が発生します。壁との距離等、設置環境により音の聞こえ方が異なる場合があります。

※ 6 : 電波障害となる場合がありますので、ラジオ、テレビ、アマチュア無線等の電波を利用する機器とは 3m 以上離してください。

※ 7 : JIS C 1509-1 で規定する A 特性サウンドレベルを示します。製品正面中央から 1m、高さ 1m の距離での測定値です。

増設設置の可能期間

パワーコンディショナ設置後の蓄電池ユニット、V2H システムの追加設置は、2031 年 12 月まで可能です。
(同等品の商品ご提供となる場合があります。)

保証期間は、各商品の保証期間となります。

nichicon

京都市中京区烏丸通御池上る 〒 604-0845

<https://www.nichicon.co.jp>